

2022(令和4)年度

# 秋田県立近代美術館年報

**Akita Museum of Modern Art** Annual Report, 2022



**Akita  
Museum  
of  
Modern  
Art**



秋田県立近代美術館 外観

## 目次

<b>沿革</b>	2
<b>美術館の事業紹介</b>	3
<b>2022(令和4)年度事業一覧</b>	5
<b>展示事業</b>	
i 特別展 日本画家 堀文子ー百年の旅ー	7
ii 特別展 サントリー美術館名品展	11
iii 特別展 秋田蘭画の世界ー『解体新書』から《不忍池図》へー	14
iv 特別展 没後20年 佐々木裕久展ー闇を研ぐ 想いが舞うー	19
v 企画展 横山津恵デッサン展	22
i コレクション展 第I期 描かれた気象	25
ii コレクション展 第II期 夏を見る	26
iii コレクション展 第III期 山粧いて山眠るー秋から冬の景色ー	27
iv コレクション展 第IV期 ウサギをさがせ!	28
<b>教育普及事業</b>	
キンビ・創作体験プログラム	29
ミュージアムコンサート	32
美術館講座・美術講演	33
出前美術館・出前美術展館	34
ネットワーク推進事業	36
ふれんどりーギャラリー	37
美術館のセカンドスクールの利用	39
博物館実習	40
職場体験、インターンシップ、研修	41
美術館ボランティアAMC（アムック）	42
<b>収集事業</b>	
美術品収集	43
図書資料	44
<b>美術品の貸出</b>	44
<b>美術品保存</b>	
美術品保存・修復	45
重要文化財等指定	45
<b>燻蒸</b>	45
<b>調査・研究業績</b>	46
<b>刊行物</b>	47
<b>入館状況</b>	48
<b>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応</b>	49
<b>組織</b>	50
<b>関係法規</b>	51
<b>館内図</b>	53
<b>建築・設備概要</b>	55
<b>利用・交通案内</b>	56

## 沿革

1988(昭和63)年	11月	秋田ふるさと村(仮称)建設基本構想策定
1989(平成元年)	5月	秋田郷土美術館(仮称)建設基本構想策定
	12月	秋田ふるさと村(仮称)建設基本計画策定
1990(平成2)年		文化課に新美術館建設準備担当設置
	6月	用地取得・造成工事着手
1991(平成3)年	6月	美術館建設工事着手
1993(平成5)年	6月	美術館建設工事完成
1994(平成6)年	4月20日	開館
1997(平成9)年	10月2日	天皇・皇后両陛下下行幸啓
1999(平成11)年	4月	秋田ふるさと村入村料無料化
2001(平成13)年	1月	展示室以外の館内無料化
	9月26日	入館者数1,000,000人を達成
2007(平成19)年	10月	入館者数1,500,000人を達成
2009(平成21)年	4月	特別展観覧料学生以下無料
2013(平成25)年	7月	入館者数2,000,000人を達成
2018(平成30)年	2月～3月	休館し、館内改修工事を実施
2018(平成30)年	4月	リニューアルオープン
	8月	入館者数2,500,000人を達成

# 美術館の事業紹介

## ◆ 展 示

### 企画展

美術館独自の企画、他美術館・諸団体との共催により、広く内外の美術を対象に特色あるテーマをもった展覧会を開催します。

### コレクション展

当館所蔵作品を年4回の展示替えを行いながら、常時公開するものです。

## Exhibition

### Special Exhibition

Under a unique theme, native and foreign artwork are displayed in cooperation with other museums and organizations.

### Permanent Exhibition

A portion of our collection is regularly displayed and each is rotated every few months.

## ◆ 収 集

近代以降の優れた美術作品を中心に、近・現代美術の思潮をたどるうえで必要な作品や資料を収集します。

- ①秋田蘭画・初期洋風画作品及び資料
- ②近代以降の本県出身及びゆかりの作家の作品や資料
- ③日本の美術思潮を学ぶことのできる作品や資料
- ④当館の収集作品としてふさわしい内外の美術作品や資料

## Purchasing Activities

In order to follow the current trends in modern and present day thought in fine art, our collection of fine works concentrates mostly on the postmodern era as described below.

- ① The Akita School of Ranga paintings, early westernstyle paintings in Japan, and the materials associated with these works.
- ② The fine art work of modern artists who are closely connected to, or are from Akita Prefecture, and related materials.
- ③ Works which teach us about the current thought in Japanese fine art, and the materials associated with these works.
- ④ Other native and foreign works which are of great substance, and the materials associated with them.

## ◆ 保存管理

優れた美術作品の散逸・損傷・亡失を防ぎ、後世に伝えるため、調査研究を行い、良好な環境の中で保存します。

## Preservation

We have preserved all of the fine works in the best condition possible in order to prevent them from being scattered, damaged or lost.

We wish to continually improve our research and hand down these collections to future generations.

#### ◆ 調査研究

当館の各種事業の充実を図るため、その基礎となる次のような調査研究活動を行います。

- ① 収蔵品に関する調査研究
- ② 秋田県の近・現代美術に関する調査
- ③ 保存・管理、教育普及活動、展示活動、創作に関する調査研究
- ④ その他の調査

#### Research Activities

We are constantly researching in order to increase our knowledge and to improve the museum's collections.

- ① Permanent collection
- ② Modern and contemporary fine art from Akita Prefecture
- ③ Topics relating to the creation, exhibition and preservation of art, as well as the contribution of fine art to education
- ④ Other researches

#### ◆ 広報出版

県民に親しまれる芸術文化活動の拠点として、種々の印刷物の刊行やマスメディアとの連携等により、美術館事業に関する情報を提供します。

#### Publicity Works Activities

As a center of art and cultural activity for People in Akita, we provide information about museum operations through pamphlets and the mass media.

#### ◆ 教育普及

誰もが気軽に利用できる美術館を目指し、展示活動を始め講演会・美術館講座・実技講座等様々な事業を行います。また、美術館ボランティアAMC(アムック)との連携によって、さらに積極的な普及活動を行います。

#### Educational Activities

In cooperation with the museum volunteer group (AMC), we hold various lectures, seminars and workshops.



秋田県立近代美術館 地下1階エントランスホール

# 2022(令和4)年度事業一覧

月／ 5階展示室 6階展示室 △移動展等 ◆企画展関連イベント等

2022	4	4月23日(土)～7月10日(日) 特別展 日本画家 堀文子 百年の旅	4月13日(水)～7月3日(日) 2022コレクション展 第1期 描かれた気象	堀文子展 ◇ スペシャルギャラリートーク 「堀文子を支えた中島良成氏の四方山話」 4月23日(土) ①回目 午前11時～ ②回目午後2時～ 講師：中島良成 氏 ◇ 記念講演会 「堀文子への旅 -檀ふみ 私の思い出-」 6月12日(日) 午後1時30分～午後3時 講師：檀ふみ 氏
	5			
	6			
	7	7月16日(土)～9月11日(日) 特別展 サントリー美術館 名品展	7月6日(水)～10月2日(日) 2022コレクション展 第2期 夏を見る	サントリー美術館名品展 ◇ 記念講演会 「雅な心、粋なかたち サントリー美術館コレクションの魅力」 7月31日(日) 午後1時30分～午後3時 講師：石田佳也 氏 (サントリー美術館学芸部長)
	8			
	9	9月17日(土)～11月13日(日) 特別展 秋田蘭画の世界		秋田蘭画の世界 ◇ 特別講演会 秋田蘭画に見る「蘭」と「唐」-異文化への憧憬と造形 9月17日(土) 午後1時30分～午後3時 講師：仲町啓子 (当館特任館長、実践女子大学名誉教授)
	10		10月14日(木)～1月4日(水) 2022コレクション展 第3期 山粧いて山眠る -秋から冬の景色-	◇ 特別講演会 謎解き「不忍池図」-表現内容と制作目的の真相を探る- 10月22日(土) 午後1時30分～午後3時 講師：内山淳一 氏 (宮城学院女子大学特任教授)
	11	11月19日(土) ～2月5日(日) 特別展 佐々木裕久展		◇ スライドトーク「秋田蘭画展のミッドコロ」 10月1日(土)、11月5日(土) 午後1時30分～午後2時30分 講師：ABSアナウンサー、担当学芸員
	12			
		12/29(木)～1/2(月) 年末休館		
2023	1	佐々木裕久展	ウサギをさがせ!	▲12月15日(金)～1月24日(火) ネットワーク事業 「アートにみるイキモノたち」 会場：秋田県立図書館特別展示室
		1/17(火)～26(木) メンテナンス休館		
	2	佐々木裕久展	1月7日(土)～4月9日(日) 2022コレクション展 第4期 ウサギをさがせ!	
	3	2月11日(土)～4月16日(日) 企画展 横山津恵 デッサン展		



◆2022年度 秋田県立近代美術館 美術館講座  
 特任館長講座

《江戸時代の美術と文化 I

—豪放から瀟洒(しょうしゃ)へ—

- 5月 7日(土) 豪放から瀟洒へ—海北友松・桂離宮
  - 6月11日(土) 瀟洒な装飾美—狩野探幽・狩野山雪
  - 7月16日(土) 古浄瑠璃と見立  
 —岩佐又兵衛・菱川師宣  
 付・サントリー美術館の名品より
  - 8月 6日(土) 明清文化の襲来—黄檗宗と文人趣味
  - 9月 3日(土) 南画の大成—池大雅
  - 10月 8日(土) 江戸の洋風画  
 —秋田蘭画・平賀源内・司馬江漢
  - 11月12日(土) 江戸っ子の誕生  
 —鈴木春信・勝川春章、司馬江漢
  - 12月 4日(土) 京のはんなり—円山応挙・呉春
- 講師：仲町啓子  
 (秋田県立近代美術館特任館長・実践女子大学文学部教授)  
 会場：秋田県立近代美術館6階研修室



☆4月30日(土)~5月29日(日) ふれんどりーギャラリー  
 齋藤國男氏 「漆芸展」

●5月14日(土)・15日(日)  
 美術館教室「工芸教室 蒔絵で彩る」

☆6月21日(火)~7月24日(日) ふれんどりーギャラリー  
 草薙裕氏「草薙裕写真展 arke~水と太陽~」

●6月25日(土)・26日(日)  
 美術館教室「写真教室 ライティング撮影・現像&プリントに挑戦！」

●7月24日(日)みんなの教室  
 「つくるう！ぶんぼうアニマルズ！2」

●8月7日(日)きっずあーと「おさかなすいぞくかん」

☆9月4日(日)~10月5日(日) ふれんどりーギャラリー  
 大関智子氏「New Wild」

●9月4日(日)きっずあーと「ねんどランドであそぼう」

●9月10日(土)・11日(日)  
 美術館教室「日本画教室 好きな植物を描こう！」

◎9月25日(日)ミュージアムコンサート「奏 ~東西の調べ~」

☆10月8日(土)~11月13日(日) ふれんどりーギャラリー  
 伊藤由美子氏「伊藤由美子 版画展」

●10月22日(土)・23日(日)  
 美術館教室「版画教室 ドライポイントで銅版面に挑戦！」

●12月4日(日)みんなの教室「新年に願いを込めて(絵馬・羽子板作成)」



2022  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 2023  
 1  
 2  
 3

i. 特別展

日本画家 堀文子—百年の旅—

会 期 2022(令和4)年4月23日(土)～7月10日(日)【77日間】  
 前期：4月23日～5月31日／後期：6月3日～7月10日  
 主 催 堀文子展実行委員会(秋田県立近代美術館・AKT秋田テレビ)  
 特別協力 秋田銀行  
 企画協力 ナカジマアート  
 後 援 横手市／横手市教育委員会／秋田魁新報社／朝日新聞秋田総局／  
 毎日新聞秋田支局／読売新聞秋田支局／河北新報社／  
 産経新聞秋田支局／日本経済新聞社秋田支局／横手経済新聞／  
 NHK秋田放送局／ABS秋田放送／AAB秋田朝日放送／岩手めんこいテレビ／  
 エフエム秋田／横手かまくらFM／エフエムゆーとぴあ／FMはなび  
 担 当 保泉充、鈴木京

昭和10年代から平成末まで、日本画壇を代表する画家として活躍した堀文子(1918-2019)の展覧会。第1章は若き堀が自身の画風を模索した時代、第2章は堀に影響を与えた秋田出身の日本画家・柴田安子と福田豊四郎の紹介、第3章は初めての海外渡航後に過ごした大磯や軽井沢の時代、第4章では小さな生命や日常の美しさに目を向けた晩年として、堀の初期から晩年までの作品を紹介した。また、堀を長く支えた中島良成氏のスペシャルギャラリートークでは制作や生活の裏話を、そして急遽決まった檀ふみ氏による講演会では、朗読も交えながら堀の心引かれる思い出話を語っていただいた。



1. 旅立ち

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
1	前後	自画像2	1939	33.0×23.4		個人蔵
2	前	自画像1	1940	31.9×40.7		個人蔵
3	後	発芽	1941	—	新美術人協会小品展	個人蔵
4	前	生きるもの	1941	31.0×40.0		個人蔵
5	後	結実	1941	66.0×63.5	第4回新美術人協会展	株式会社 米八グループ
6	前	田園風景	1943	34.8×43.8		個人蔵
7	後	朝	1948	61.0×72.5	第1回創造美術展	米八グループ
8	前	稲束の群れ	1948	38.4×49.8	第1回創造美術展	個人蔵
9	後	花	1949	45.4×37.9		個人蔵
10	前	廃墟	1948	88.1×70.7	第1回創造美術展	秋田県立近代美術館
11	後	八丈島風景B	1949	70.7×88.1	第2回創造美術展	秋田県立近代美術館
12	前	八丈島	1950	91.5×73.0	第2回春季創造美術展	株式会社 米八グループ
13	後	花	1950?	80.0×60.0	第5回女流画家協会展	株式会社 米八グループ
14	前後	海辺	1950	112.1×193.9	第3回創造美術展	株式会社 米八グループ
15	前後	月と猫	1950頃	100.0×72.7		株式会社 米八グループ
16	前	しゃも	1952	90.0×116.0	第1回日本国際美術展	株式会社 米八グループ
17	後	風景	1952	49.5×64.7		個人蔵
18	前	高原	1952	128.5×183.0	第16回新制作展	株式会社 米八グループ
19	後	暗い谷	1954	173.5×87.0		株式会社 米八グループ
20	後	滝	1954	117.0×72.8	第1回現代日本美術展	株式会社 米八グループ

21	前後	山の思いで	1955	161.0×360.0	第19回新制作展	株式会社 米八グループ
22	前後	山	1954	64.0×100.0	第18回新制作展	株式会社 米八グループ
23	前	嵐の中の花	1956	90.0×114.0		株式会社 米八グループ
24	前	街	1957	73.2×117.3	第21回新制作展	株式会社 米八グループ
25	後	楽しい仲間	1956	86.0×173.0	第20回新制作展	株式会社 米八グループ
26	前	雉	1959	91.0×117.5		株式会社 米八グループ
27	後	ふくろう	1958	91.5×117.5	第10回新制作春季展	株式会社 米八グループ
28	前	稲倉	1959	112.5×146.0	第23回新制作展	株式会社 米八グループ
29	後	霧の野	1960	112.0×145.5	第24回新制作展	東京国立近代美術館

## 2. 出会い

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
30	前後	柴田安子／スケッチ (20点)	—	—		秋田県立近代美術館
31	前後	柴田安子／花鳥図	—	46.5×51.1		個人蔵
32	前後	柴田安子／ひいな	1930	95.4×31.2		個人蔵
33	前後	柴田安子／めらはど	1936	72.0×99.0	第4回春の青龍社展	個人蔵
34	前	福田豊四郎／濤	1938	213.0×377.0	第1回新美術人協会展	秋田県立近代美術館
35	後	福田豊四郎／冬漁 (八郎湖凍漁)	1941	213.8×374.6	第4回新文展	秋田県立近代美術館
36	前	福田豊四郎／秋田のマリヤ	1948	179.3×222.4	第1回創造美術展	秋田県立近代美術館
37	後	福田豊四郎／海女	1950	182.0×227.0	第3回創造美術展	東京国立近代美術館
38	前	福田豊四郎／滝	1955	168.0×256.0	第19回新制作展	秋田県立近代美術館
39	後	福田豊四郎／山菜売る人達	1932	168.0×381.6	第4回青龍展	秋田県立近代美術館

## 3. 旅

### I はじめての海外

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
40	前後	魔王の館	1964	121.5×198.0	第28回新制作展	株式会社 米八グループ
41	前後	限りなき落下	1965	85.3×46.0		株式会社 米八グループ
42	前後	罌粟	1965	72.0×52.0		株式会社 米八グループ
43	前	地底の風景	1963	62.0×90.0		株式会社 米八グループ
44	後	紫の雨	1965	72.8×91.2	堀文子作品展	名都美術館
45	前後	仮面と老婆	1966	130.0×181.0	第30回新制作展	株式会社 米八グループ

### 海外スケッチ

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
46	前	少女像 1	1961	50.3×39.8		個人蔵
47	前	パリ	1961	30.9×38.8		個人蔵
48	前	パリ 1	1961	23.7×34.5		個人蔵
49	前	パリの郊外	1961	34.8×43.8		個人蔵
50	前	アビニヨンの古い橋 1	1962	38.0×55.0		個人蔵
51	前	イスファーファンの村・トルコの女	1974/75	—		個人蔵
52	前	ペルセポリス2	1974/75	28.0×35.0		個人蔵
53	前	月光のシャルトルの街	—	—		個人蔵
54	前	ステンドグラス	1963	34.5×46.4		個人蔵
55	前	フランスの古い教会	1963	25.6×39.1		個人蔵
56	前	ニューヨーク 1	1963	21.0×29.0		個人蔵
57	前	ニューヨーク 3	1963	21.5×29.0		個人蔵

### 絵本挿画

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
58	後	キンダーブック原画1 おかしのおうち	—	31.0×64.0		個人蔵
59	後	キンダーブック原画2 すなはまのかいがら	1955	29.2×30.5		個人蔵
60	後	キンダーブック原画3 おたんじょうび	—	30.5×41.3		個人蔵

61	後	キンダーブック原画4 とぶおけいこ	—	—	—	個人蔵
62	後	こどものせかい 22	—	32.2×52.5	—	個人蔵
63	後	こどものせかい 18	—	37.0×44.6	—	個人蔵
64	後	こどものせかい	1965	—	—	個人蔵
65	後	「みち」4-5 ヒメシヤラ道 原画	—	27.2×39.5	—	個人蔵
66	後	「みち」雪解け道P23 原画	1972	—	—	個人蔵
67	後	「き」18-19 嵐の中の木 原画	—	32.0×41.0	—	個人蔵
68	後	「き」6 木立子ども 原画	—	31.7×54.8	—	個人蔵
69	後	季刊ひろば 1967年春季号 33 チューリップ	1967	—	—	個人蔵
70	後	季刊ひろば 1967年冬季号 36 菊	1967	—	—	個人蔵
71	後	季刊ひろば 1968年夏季号 38 漁港	1968	—	—	個人蔵
72	後	季刊ひろば 1968年秋季号 39 二羽の雀	1968	—	—	個人蔵

## II 大磯

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
73	前後	渚	1970年頃	21.0×33.0	—	株式会社 米八グループ
74	前後	晩夏	1970年頃	45.5×37.9	—	株式会社 米八グループ
75	前後	貝殻草	1970	40.0×26.0	—	株式会社 米八グループ
76	前後	花霞	1973	155.0×195.1	第37回新制作展	株式会社 米八グループ
77	前	春	1969	130.4×194.0	第33回新制作展	名都美術館
78	後	青い花	1970年代	75.0×54.0	—	株式会社 米八グループ
79	後	紅枝垂	1970年代	59.0×43.0	—	株式会社 米八グループ
80	前後	山霧	1970年代	40.0×52.0	—	株式会社 米八グループ

## III 軽井沢

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
81	前	離山凍る	1986	145.0×190.0	第13回創画展	名都美術館
82	前	風景1 (離山凍る)	—	28.5×35.5	—	個人蔵
83	後	浅間厳冬	1987	194.0×120.0	第14回創画展	株式会社 米八グループ
84	前後	冬野の詩	1988	140.0×190.0	第15回創画展	株式会社 米八グループ
85	前後	大下図ほか (冬野の詩)	—	—	—	個人蔵
86	前後	春	1980年代	60.0×49.0	—	株式会社 米八グループ

## IV トスカーナ

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
87	前後	アンギャリタ映え	1990	115.0×175.0	第17回創画展	株式会社 米八グループ
88	前後	トスカーナの花野	1990年頃	45.5×37.9	—	株式会社 米八グループ
89	前後	終り	1992	53.0×65.2	堀文子日本画展(Arezzo)	株式会社 米八グループ
90	前後	奇妙な花達	1992	49.0×59.0	—	株式会社 米八グループ
91	前後	素描 トスカーナの花達 (植物2)	—	32.5×23.5	—	個人蔵
92	前後	チェチリアーノ凍る野II	—	38.0×56.2	—	個人蔵
93	前後	風景20 (スペロ)	—	56.2×38.1	—	個人蔵

## V アマゾン 南米 ネパール

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
94	前後	楽しき鳥達	1998	60.0×71.0	—	株式会社 米八グループ
95	前後	泪の仮面	1999	31.8×40.9	堀文子展1999…現在	株式会社 米八グループ
96	前後	桃源郷	1999	30.0×40.0	—	株式会社 米八グループ
97	前	造山の記憶A	1999	33.0×45.0	—	株式会社 米八グループ
98	前後	クランデーロ (呪術師) の祈り	2001	40.0×32.0	堀文子展2001…現在	株式会社 米八グループ
99	前後	幻の花 ブルーポピー	2001	45.5×33.3	堀文子展2001…現在	株式会社 米八グループ

#### 4. 命の輝き

No	展示	作品名	制作年	寸法(cm)	出展	所蔵先
101	前後	青い鳥を運ぶブルカの女 (マドンナ)	2002	104.0×60.0	堀文子展2002…現在	株式会社 米八グループ
102	前後	極微の宇宙に生きるものたちII	2002	45.5×38.0	堀文子展2002…現在	株式会社 米八グループ
103	前後	女王一頂点に立つ者一の孤独	2012	60.6×50.0		個人蔵
104	前後	大下図 (女王一頂点に立つ者一の孤独)	—	—		個人蔵
105	前後	黒柳徹子デッサン2	2000	43.0×32.8		個人蔵
106	前	ゆらぐ水面	2001	45.5×37.9	堀文子展2001…現在	個人蔵
107	前	モルフォ蝶の森	2005	53.0×41.0		株式会社 米八グループ
108	後	樹霊の表情 解脱	2008	39.0×26.0	堀文子展2008…現在	株式会社 米八グループ
109	後	樹霊の表情 憤怒	2008	39.5×18.5	堀文子展2008…現在	株式会社 米八グループ
110	後	樹霊の表情 疑惑	2008	35.5×25.0	堀文子展2008…現在	株式会社 米八グループ
111	前	絢爛と散り行く	2002	60.0×45.5	堀文子展2002…現在	株式会社 米八グループ
112	後	妖精(クリオネ)と遊ぶ	2003	53.1×41.0	堀文子展2003…現在	株式会社 米八グループ
113	前	くらげI	2003	33.3×45.5	堀文子展2003…現在	株式会社 米八グループ
114	後	稲妻I	2006	43.5×32.0		株式会社 米八グループ
115	前	蜘蛛の家II	2006	21.3×28.5		株式会社 米八グループ
116	後	ニューロンは考える2	2010	41.0×32.3		個人蔵
117	前	媼尊像	2008	65.2×50.5	堀文子展2008…現在	株式会社 米八グループ
118	後	狼魚の孤独	2010	29.7×59.1		個人蔵
119	前	鶴が渡る、ヒマラヤを越えて	2010	59.8×79.5	堀文子展2010…現在	株式会社 米八グループ
120	後	ケツァール(古代マヤの守護神)	2009	98.0×44.0	堀文子展2009…現在	株式会社 米八グループ
121	前	名もなきものシリーズ どくだみ 露草 姫小判草	2013	46.3×39.0	堀文子展2013…現在～名もなきもの～	株式会社 米八グループ
122	後	冬枯れの萩の姿I	2014	45.1×33.2		株式会社 米八グループ
123	前	名もなきものシリーズ 土筆とすぎな	2013	46.2×33.8	堀文子展2013…現在～名もなきもの～	名都美術館
124	後	冬枯れの萩の姿II	2014	45.1×33.2		株式会社 米八グループ
125	前	名もなきものシリーズ 檜扇水仙	2013	45.5×33.3		名都美術館
126	後	冬枯れの萩の姿III	2015	45.5×38.0	堀文子展2013…現在～名もなきもの～	株式会社 米八グループ
127	前後	のりうつぎ	2015	30.0×45.7	※絶筆1点前作品	個人蔵
128	前後	スケッチブック	—	—		個人蔵
129	後	絵本「き」「みち」「キンダーブック」	—	—		個人蔵
130	前後	装丁本「みそ汁にはこべ浮かべて」「鶴渡る」 「えほん万華鏡」「葱とわかめと油揚げ」	—	—		個人蔵

#### ◇関連記事

##### 【新聞・雑誌等】

『秋田魁新報』「すいよう学芸館・美を知る」	3/30
『秋田魁新報』「堀文子さんの画業たどる」	4/23
『河北新報』「東北の美術館・博物館」	5/26
『河北新報』「百年の旅 軌跡たどる」	6/27
『ギャラリー』全国展覧会情報	6月号
『月刊美術』	6月号
『どあつぶなう』	6月号
『芸術新潮』全国展覧会情報	6・7月号
『朝日新聞』お知らせ	7/2
『白泉社「モエ」』全国展覧会情報	7月号

##### 【オンライン】

『美術手帳』

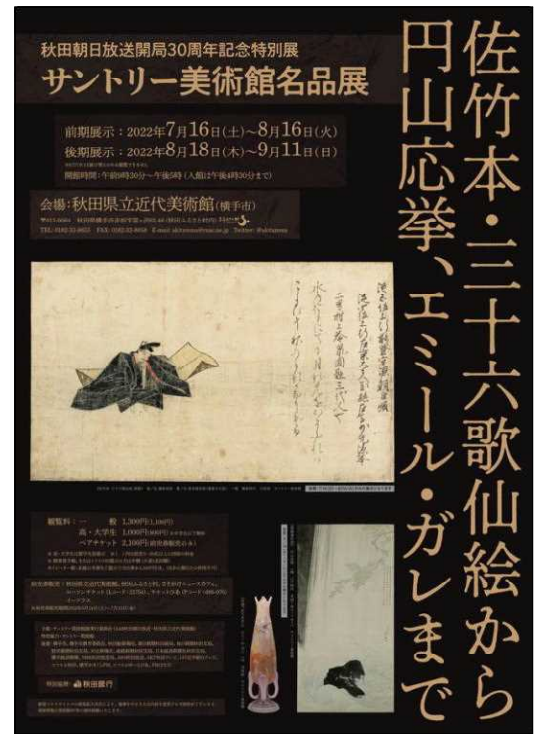
## ii. 特別展

秋田朝日放送開局30周年記念特別展

### サントリー美術館名品展

—佐竹本・三十六歌仙絵から円山応挙、エミール・ガレまで

- 会 期 2022(令和4)年7月16日(土)～9月11日(日)【57日間】  
 前期：7月16日(土)～8月16日(火)  
 後期：8月18日(木)～9月11日(日)  
 ※8月17日(水)は展示替のため休場
- 主 催 サントリー美術館展実行委員会  
 (AAB秋田朝日放送・秋田県立近代美術館)
- 特別協力 サントリー美術館  
 特別協賛 秋田銀行
- 後 援 横手市/横手市教育委員会/秋田魁新報社/朝日新聞秋田総局/  
 毎日新聞秋田支局/読売新聞秋田支局/河北新報社/  
 産経新聞秋田支局/日本経済新聞社秋田支局/横手経済新聞/  
 NHK秋田放送局/ABS秋田放送/AKT秋田テレビ/  
 放送岩手朝日テレビ/エフエム秋田/横手かまくらFM/  
 エフエムゆーとぴあ/FMはなび
- 担 当 秋田達也、木村雅洋



東京・六本木のサントリー美術館より、絵画・陶磁・漆工・染織など日本の古美術を中心に、エミール・ガレなどのガラス工芸も交え、全51件の作品をお借りして展示した。秋田ゆかりの《佐竹本・三十六歌仙絵 源順》を目玉としてポスターやチラシで大きく取り上げたが、その他にも多くの名品が出品され、展示数は少なかったものに見応えのある展覧会になったと思う。秋田において、高いレベルの古美術を紹介する展覧会はそうそうあるものではなく、とても貴重な機会だったが、開幕直後に新型コロナウイルスの感染者が急増したこともあり、多くの人にご覧いただけなかったのがとても残念であった。会期中には、サントリー美術館の学芸部長の石田佳也氏による講演会も開催した。

## 第1章 《華やかな暮らしと遊び》

No	展示	作品名	作者名	材質技法	員数	時代	法量(縦×横×高さcm)
1	前	佐竹本・三十六歌仙絵 源順	伝 藤原信実 画 伝 後京極良経 書	紙本著色	1幅	鎌倉時代	13世紀 36.6×60.5
2	後	日吉山王祇園祭礼図屏風	土佐派	紙本著色	6曲1双	室町時代	16世紀 (各)122.4×297.0
3	前	秋草蒔絵鏡台	—	高台寺蒔絵	1基	桃山時代	17世紀初 28.0×26.6×61.7
4	後	京名所図屏風	—	紙本著色	6曲1双	桃山時代	17世紀初 (各)168.5×349.0
5	前	花下遊楽図屏風	天木宗仲	紙本著色	6曲1双	桃山時代	17世紀 (各)151.0×352.0
6	後	遊楽図	長谷川等学	金地著色	3幅対	桃山時代後期 元和元年(1615)頃	(右幅)112.3×46.5 (中幅)119.2×50.2 (左幅)119.5×50.3
7	後	邸内遊楽図屏風	—	紙本著色	6曲1隻	江戸時代寛永期(1624-1644)	82.0×271.9
8	前	賀茂競馬図屏風	—	紙本著色	6曲1双	江戸時代	17世紀 (各)120.0×275.0
9	前	四天王寺住吉大社祭礼図屏風	—	紙本著色	6曲1双	江戸時代	17世紀 (各)152.2×365.4
10	後	葡萄蒔絵煙草盆	—	—	1具	江戸時代	17世紀 (煙草盆)28.0×13.3×25.8 (煙管)長さ49.2"
11	前	雨宿り図屏風	高嵩谷	紙本著色	6曲1隻	江戸時代	18世紀 163.0×376.0
12	前	子宝五節遊	鳥居清長	大判錦絵	5枚	江戸時代 寛政7～8年(1795-1796)	(各)39.5×26.0

13	後	江戸高名会亭尽のうち 「両国柳橋 河内屋」 「柳ばし夜景 万八」 「芝神明社内 車屋」 「今戸橋之図 玉庄」 「深川八幡宮 平清」	歌川広重	大判錦絵	24の うち5枚	江戸時代 天保6～11年 (1835-1840)頃	(各)22.0×34.0
14	後	紫陽花野菊蒔絵提重	—	—	1具	江戸時代 19世紀	28.0×19.8×29.3
参考	前後	佐竹本・三十六歌仙絵巻模写 (秋田県立近代美術館蔵)	土屋秀禾 模写	木版多色摺	2巻	明治34年(1901)	(上巻)36.0×1207.0 (下巻)36.0×1124.0

※No.1 重要文化財、No.10 重要美術品

## 第2章 《吉祥を呼ぶ・文様の美》

No	展示	作品名	作者名	材質技法	員数	時代	法量(縦×横×高さcm)
15	前後	二福神文真形釜	—	筑前・芦屋	1口	室町時代 15世紀	高17.0 口径13.3 胴径27.4 幅(鑲付)28.0 口高1.9
16	後	樹下麝香猫図屏風	伝 狩野雅楽助之信	紙本淡彩	6曲1隻	室町時代 16世紀	154.3×338.4
17	前	葡萄栗鼠栗鶉沈金太鼓樽	—	—	1合	桃山時代 16世紀後半	22.6×8.6×29.0
18	後	花鳥螺鈿蒔絵聖龕	—	—	1基	桃山時代 16～17世紀	27.0×4.0×37.5
19	前	誰が袖図屏風	—	紙本著色	6曲1双	江戸時代 17世紀	(各)172.0×384.0
20	後	孔雀図屏風	雲谷等璠	紙本著色	8曲1双	江戸時代 17～18世紀	(各)159.3×542.6
21	前	白綸子地花束立涌模様打掛	—	—	1領	江戸時代 18世紀後半	総丈164.0 袖丈49.0 裾60.0
22	前	能装束 段に流水海松貝模様緋籠	—	—	1領	江戸時代 18～19世紀	総丈141.0 袖丈54.5 裾71.5
23	前	能装束 間道蔵お松蜘蛛模様緋籠	—	—	1領	江戸時代 19世紀	総丈142.3 袖丈52.7 裾67.8
24	前	隅田川図屏風	鋏形蕙斎	紙本著色	8曲1隻	江戸時代 文政年(1821)	137.3×423.8
25	後	入子杓海老模様筒描蒲団地	—	—	1枚	明治～昭和時代 19～20世紀	175.0×159.5
26	後	桐鳳凰模様筒描蒲団地	—	—	1枚	明治～昭和時代 20世紀前半	222.0×155.5
27	後	宝尽文筒描蒲団地	—	—	1枚	明治～昭和時代 20世紀前半	195.0×161.5

## 第3章 《物語と季節》

No	展示	作品名	作者名	材質技法	員数	時代	法量(縦×横×高さcm)
28	前	病草紙断簡「不眠の女」	—	紙本著色	1幅	平安時代 12世紀	26.0×41.4
29	後	四季花鳥図屏風	伝 土佐広周	紙本著色	6曲1双	室町時代 15世紀	(各)150.0×361.8
30	前後	鼠草子絵巻(第一巻・第二巻)	—	紙本著色	5巻の うち2巻	室町～桃山時代 16世紀	(第一巻)33.8×560.0 (第二巻)33.8×565.1
31	前後	織部四方蓋物	—	美濃	1合	桃山時代 17世紀初	20.0×18.0×9.2
32	前	鹿下絵新古今集和歌巻断簡	本阿弥光悦 書 俵屋宗達 画	紙本金銀泥 下絵墨書	1幅	桃山時代 17世紀前半	33.7×122.5
33	前	伊勢物語図色紙 水鏡	近衛尚嗣 書 伝 俵屋宗達 画	紙本著色	1面	江戸時代 17世紀	25.2×21.5
34	前後	天稚彦物語絵巻	—	紙本著色	2巻	江戸時代 17世紀	(上巻)31.1×774.1 (下巻)31.1×613.7
35	前	春夏花鳥図屏風	狩野永納	紙本著色	6曲1双	江戸時代 17世紀後半	(各)153.0×361.0
36	前後	色絵花卉文輪花鉢	—	有田	1口	江戸時代 17世紀後半	口径23.5 高台径11.1 高11.2
37	前後	青緑山水画帖	池大雅	絹本著色	1帖(10図)	江戸時代 宝暦3年(1763)	(各)19.3×27.4
38	前後	棲鸞園画帖	伊藤若冲 円山応挙 ほか	絹本著色 ほか	1帖(15図)	江戸時代 天明年(1787)跋	(各)44.2×34.9
39	後	青楓瀑布図	円山応挙 画 皆川淇園 賛	紙本著色	1幅	江戸時代 天明年(1787)	178.0×91.9
40	後	楼閣山水図	谷文晁	絹本著色	双幅	江戸時代 文政年(1822)	(各)145.8×61.0

※No.28、No.29 重要文化財

## 第4章 《輝きのかたち》 江戸時代後期～明治時代初期 19世紀

No	展示	作品名	作者名	材質技法	員数	時代	法量(縦×横cm)
41	前後	薩摩切子 紅色被栓付瓶	—	薩摩藩	1合	江戸時代後期 19世紀中頃	底径8.9 総高28.4
42	前後	薩摩切子 藍色被船形鉢	—	薩摩藩	1口	江戸時代後期 19世紀中頃	短径13.2 長径18.1 高10.4
43	前後	切子 文具揃	—	—	1具(7点)	江戸時代後期～明治時代初期 19世紀	
44	前後	レースグラス・ゴブレット	—	ヴェネチア	1点	17～18世紀	口径8.7 高15.9
45	前後	ゴールドサンドイッチ聖人 文ゴブレット	—	ボヘミア	1点	1730年頃	総高23.0 (身)口径8.0 高17.5 (蓋)径8.7 高7.0
46	前後	カットガラス蓋付鉢	—	イギリス	1点	19世紀	長径27.5 総高41.8
47	前後	花器「バツタ」	エミール・ガレ	フランス	1口	1878年頃	口径14.5 胴径22.8 高27.0
48	前後	花器「蜻蛉」	エミール・ガレ	フランス	1口	1889-1900年	口長径13.5 高29.5
49	前後	花器「おだまき」	エミール・ガレ	フランス	1口	1898-1900年	底径10.5 高37.8
50	前後	栓付瓶「葡萄」	エミール・ガレ	フランス	1点	1900年	胴径12.6 総高32.5
51	前後	昼顔形花器「蛾」	エミール・ガレ	フランス	1口	1900年頃	口径24.2 高53.8

### ◇関連記事

#### 【新聞・雑誌等】

『北鹿新聞』 イベント散歩	7/14
『秋田魁新報』	7/17
『秋田魁新報』 美を知る171	8/3
『marimari』 アート探訪	8/5
『陸奥新報』	8/14
『秋田県書道連盟会報』 ぶらり♪書道探訪	9/24

#### 【テレビ・ラジオ】

AAB秋田朝日放送		
「珠玉の名品が秋田に	サントリー美術館名品展」(前編)	5/20
「情報ニュースショー	トレタテ！」	7/18
「珠玉の名品が秋田に	サントリー美術館名品展」(後編)	7/30
「サタナビっ！」		8/6
「情報ニュースショー	トレタテ！」	8/18

#### 【Web】

横手経済新聞	7/16
--------	------



展示室の様子



iii. 特別展

秋田蘭画の世界

— 『解体新書』から《不忍池図》へ—

会 期 2022(令和4)年9月17日(土)～11月13日(日)【56日間】  
 前期：9月17日(土)～10月16日(日)  
 後期：10月19日(水)～11月13日(日)  
 ※10月17日(月)、18日(火)は展示替のため休場

主 催 秋田蘭画展実行委員会  
 (秋田県立近代美術館・秋田魁新報社・ABS秋田放送)

後 援 横手市/横手市教育委員会/横手かまくらFM/  
 エフエムゆーとぴあ/FMはなび

助 成 令和4年度地域ゆかりの文化資産を利用した展覧会支援事業

翻訳協力 阿部邦子(国際教養大学客員教授・応用国際教養教育推進機構連携研究員)  
 Cherie BROWN

担 当 鈴木京、秋田達也



秋田ゆかりの文化財・秋田蘭画を広く知っていただくことを目的に開催した。『解体新書』の挿絵で著名な小田野直武らによる、秋田の藩士達の絵画群は江戸中期の洋風画の白眉として知られるが、一般への知名度はあまり高くない現状がある。本展では秋田蘭画が成立する過程を示す重要な作品を集中的に紹介し、多様なトピックのなかに成り立っていることの魅力を感じてもらえるよう構成した。新出資料としては、小田野直武愛用と伝わる画材をご出品いただき、科学調査の結果もあわせて紹介した。会期中は4,067名の方にご来場いただき、その美しさと歴史を楽しんでいただくことができた。

1. 秋田蘭画とは

No	展示	作品名	作者名	制作年代	材質	員数	所蔵
1	前後	椿に文鳥図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
2	前	大黒・恵比寿図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	対幅	歸空庵蔵
3	後	竹に文鳥図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
4	後	岩に牡丹図	佐竹義躬	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	個人蔵

※No.3 秋田県指定文化財

2. 秋田蘭画以前—18世紀秋田藩の文化

No	展示	作品名	作者名	制作年代	材質	員数	所蔵
5	前	鍾馗図	小田野直武(無款)	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	個人蔵
6	前	鍾馗図	英一蝶	江戸時代 18世紀	絹本墨画淡彩	1幅	個人蔵
7	後	神農図	小田野直武(無款)	宝暦10年(1760)頃	紙本着色	1幅	個人蔵
8	後	鷹捕鳥之図	小田野直武(無款)	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	個人蔵
9	前	大威徳明王像図	小田野直武	明和2年(1765)	板・着色	1面	角館・大威徳山神社
10	後	花下美人図	小田野直武	明和3年(1766)	紙本着色	1面	角館總鎮守 神明社
11	前	風竹虎図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	紙本墨画	1幅	秋田県立図書館
12	後	巖に松	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	紙本墨画	1幅	個人蔵
13	前後	模写(古今画藪 後八種)	佐竹義躬	江戸時代 18世紀	紙本墨画淡彩	4点	個人蔵
14	前後	粉本(山水図・滝図)	小田野直武	明和3年(1766)	紙本墨画淡彩	1点	個人蔵
	前後	粉本(神将図・黄初平図)	小田野直武	明和3年(1766)	紙本墨画	1点	個人蔵
	前	粉本(鍾馗騎驢図)	小田野直武	明和5年(1768)	紙本墨画	1点	個人蔵
	後	粉本(一蝶・永雲)	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本墨画	1点	個人蔵
	後	粉本(鶏雌雄)	小田野直武	明和期か	紙本墨画	1点	個人蔵

15	前	仙人	益戸滄洲	江戸時代	18世紀	紙本墨画淡彩	1幅	個人蔵
16	後	陶淵明像	益戸滄洲	江戸時代	18世紀	紙本墨画	1幅	秋田市立佐竹史料館
17	前	牡丹図	岡本東郭	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
18	後	岩に牡丹図	佐竹義躬	江戸時代	18世紀	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館
19	前後	『津くし琴』	佐竹義邦	安永5年(1776)		紙本墨書	1冊	秋田県立図書館
20	前後	『四時囀』	佐竹義躬	明和7年～天明8年 (1770～1788)		紙本墨書	1冊	個人蔵
21	前後	秋田街道絵巻(上)	伝 荻津勝孝	寛政後期	18世紀	紙本着色	1巻	秋田市立千秋美術館

※No. 9 No. 10 仙北市指定文化財 No. 21 秋田県指定文化財

### 3. 『解体新書』—秋田蘭画を誕生させた新たな知

No	展示	作品名	作者名	制作年代	材質	員数	所蔵
22	前後	物類品隲	平賀源内	宝暦13年(1763)	木版	6冊の内	仙北市立角館町平福記念美術館
23	前後	紅毛雑話	森嶋中良	天明7年(1787)	木版	5冊の内	秋田県立近代美術館
24	前後	『紅毛禽獣魚介虫譜』(『動物図譜』)	ヤン・ヨンストーン	1660年刊	銅版	2冊	秋田県立近代美術館
25	前後	トルコの馬飾・馬の諸種	ヨハン・エリアス・リーディンガー	1752年	銅版	1冊38葉	神戸市立博物館
26	前後	ファン・ロイエン筆花鳥図模写	石川大浪・孟高	寛政8年(1796)賛	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館
27	前後	大山六左衛門・太田伊太夫記連書	大山六左衛門・太田伊太夫	安永2年(1773)6月25日	紙本墨書	1冊	秋田県公文書館
28	前	石井忠運日記(安永2年10月30日)	石井忠運	安永2年(1773)	紙本墨書	1冊	秋田県公文書館
29	後	宗決様御勤功覚	—	安永2年(1773)	紙本墨書	1冊	秋田県公文書館
30	前後	ターヘル・アナトミア (オントレイトクディハ・ターフェレン オランダ語)	ヨハン・アダム・クルムス著 ヘラルト・ディクテン訳	1734年	銅版	1冊	国立大学法人 東京 医科歯科大学図書館
31	前後	人体解剖図説	ファン・ワルエルダ	1568年	銅版	1冊	秋田市立千秋美術館
32	前後	解体新書	杉田玄白ら訳 小田野直武画	安永3年(1774)	木版	5冊	秋田県立図書館
33	前後	大絵画本	ヘラルド・ドゥ・ライレッセ	1740年刊	銅版	2冊	秋田市立千秋美術館
34	前後	六物新志	大槻玄沢	天明6年(1786)	木版	2冊	秋田県立図書館
35	前後	宋紫石画譜	宋紫石	明和2年(1765)	木版	3冊	神戸市立博物館
36	前後	古今画藪 後八種	宋紫石	明和8年(1771)	木版・一部彩色	8冊の内2巻	神戸市立博物館
37	前後	少女愛犬図	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	個人蔵
38	前	海浜風景(穏やかな海)	ヤン・ファン・ホイエン原画	1759年頃	紙本銅版筆彩	1面	仙北市立角館町平福記念美術館
39	後	リスボン地震図(「リスボン荒墟の偉観」)	パリおよびペダガッシュ素描	1757～60年頃	紙本銅版筆彩	1面	個人蔵
40	前	ライオン図	宋紫石	明和5年(1768)	絹本着色	1幅	大和文華館
41	前	獅子図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
42	前	聯珠争光図	宋紫石	明和2年(1765)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
43	前	雪中南天小禽図	佐々木原善	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
44	後	鶴	沈南蘋	乾隆3年(1738)	絹本着色	対幅	秋田県立近代美術館
45	後	風牡丹図	鄭培	清時代 18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
46	後	岩に牡丹図	宋紫石	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
47	後	日金山眺望富士山図	宋紫石	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	東京国立博物館
48	前後	毛介綺煥	細川重賢	江戸時代 18世紀	紙本着色	1冊	公益財団法人 永青文庫
49-1	前後	佐竹曙山写生帖(第1冊)	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	紙本着色	3冊の内	秋田市立千秋美術館
50	前後	昆虫胥化図	細川重賢	江戸時代 18世紀	紙本着色	1冊	公益財団法人 永青文庫
51	前	墨竹図	島津重豪・佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本墨画	1幅	秋田市立千秋美術館
52	前後	小田野直武畫帖	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1冊	個人蔵
53	前	鱒図	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館
54	後	雷魚図	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館

※No. 26 No. 44 No. 49 秋田県指定文化財

#### 4. 「阿蘭陀画（おらんだえ）」の競演—秋田蘭画の名品

No	展示	作品名	作者名	制作年代	材質	員数	所蔵
55	前後	岩に牡丹図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1面	秋田県立近代美術館
56	前	湖山風景図	佐竹曙山	安永7年(1778)頃	紙本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
57	前後	画集	—	—	紙本着色、銅版画	1冊	個人蔵
49-3	前後	佐竹曙山写生帖（第3冊）	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色、紙本着色	3冊の内	秋田市立千秋美術館
49-2	前後	佐竹曙山写生帖（第2冊）	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	紙本着色	3冊の内	秋田市立千秋美術館
58	前後	小田野直武写生帖	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1帖	秋田県立近代美術館
59	後	紅毛人馬曳図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
60	後	笹に白兔図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
61	前	蓮図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
62	前	紅蓮図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
63	前	鷺図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
64	前	紅梅椿図	佐竹義躬	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	東京国立博物館
65	前	牡丹図	藤氏憲承	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	公益財団法人 平野政吉美術財団
66	後	秋菊図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	公益財団法人 平野政吉美術財団
67	後	岩に牡丹図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
68	後	岩に牡丹図	佐竹義躬	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田県立近代美術館
69	後	竹に椿図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	公益財団法人 平野政吉美術財団
70	後	小禽・椿花図	藤氏憲承	江戸時代 18~19世紀	紙本着色	1幅	公益財団法人 平野政吉美術財団
71	前	蝦蟇仙人図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
72	前	人物図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本墨画	1幅	個人蔵
73	前	唐太宗図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
74	前	紅毛童子図	田代忠国	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
75	前	三聖図	田代忠国	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
76	後	唐太宗花鳥図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	三幅対	秋田県立近代美術館
77	後	三聖人図	田代忠国	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
78	後	児童愛犬図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
79	前	唐美人図	伝 小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
80	前	円窓美人図	藤氏憲承	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
81	前	圓窓美人図	田代忠国	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
82	後	卓文君図	伝 司馬江漢	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
83	後	卓文君図	田代忠国	江戸時代 18~19世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
84	後	芍薬花籠図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田県立近代美術館
85	後	燕子花にハサミ図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
86	前	不忍池図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1面	秋田県立近代美術館
87	前	佐竹曙山書簡	佐竹曙山	安永7年(1778)2月29日か	紙本墨書	1通	秋田市立佐竹史料館
88	前	島津重豪書簡	島津重豪	安永8年(1779)か	紙本墨書	1通	秋田県公文書館
89	後	佐竹曙山書簡（蘭語印について）	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	紙本墨書	1通	歸空庵蔵
90	後	梅屋敷図	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1面	歸空庵蔵
91	前	高輪海景	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1点	秋田市立千秋美術館
92	前	品川沖夜釣	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1点	秋田市立千秋美術館
93	後	新川酒蔵	小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1点	秋田市立千秋美術館
94	後	富嶽図	小田野直武	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田県立近代美術館
95	前	紅毛玻璃器図	佐竹義躬・田代忠国	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田県立近代美術館
96	前	円窓牡丹図	佐竹義躬	江戸時代 18世紀	紙本着色	1幅	神戸市立博物館
97	前	燕子花にナイフ図	佐竹曙山	江戸時代 18世紀	絹本着色	1幅	秋田市立千秋美術館
98	前	貼交風屏風	伝 田代忠国	江戸時代 18~19世紀	紙本着色	6曲1隻	歸空庵蔵
99	前後	画材	—	江戸時代	筆・顔料	一式	個人蔵
100	前後	印章	—	江戸時代 18世紀	石材	一顆	個人蔵
101	後	椿（写生）	伝 小田野直武	江戸時代 18世紀	紙本着色	1点	個人蔵

102	前	鷺(写生)	小田野直武	江戸時代	18世紀	紙本着色	1点	個人蔵
103	後	桜図	佐竹義躬	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
104	後	鷹図	小田野直武	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
105	後	松に唐鳥図	佐竹曙山	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
106	後	鶴図	佐竹曙山	江戸時代	18世紀	紙本墨画	1幅	秋田市立千秋美術館

※No. 76, 86, 105 重要文化財 No. 56, 49-3, 49-2, 58, 60, 62, 78, 84, 94, 97 秋田県指定文化財

## 5. 秋田蘭画の変容

No	展示	作品名	作者名	制作年代	材質	員数	所蔵	
107	前	不忍池図	小田野直武	江戸時代	18世紀	紙本着色	1面	歸空庵蔵
108	後	不忍池図	司馬江漢	天明4年(1784)	紙本銅版着色	1点	東京国立博物館	
109	前	不忍池図	司馬江漢	天明4年(1784)	紙本銅版着色	1点	神戸市立博物館	
110	後	洋人調馬図	伝 司馬江漢	江戸時代	18~19世紀	絹本着色	1面	個人蔵
111	前	鉄砲洲富士遠望図	司馬江漢	寛政10年(1798)	絹本油彩	1幅	歸空庵蔵	
112	前	五位鷺図	司馬江漢	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
113	後	富嶽図	小田野直武	江戸時代	18世紀	絹本着色	1幅	歸空庵蔵
114	後	深川洲崎富士遠望図	司馬江漢	寛政12年(1800)	絹本油彩	1幅	歸空庵蔵	
115	前	松に銀鷄図	佐竹義和	江戸時代	19世紀初期	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
116	後	紅梅と鷺鳥	佐竹義和	寛政11年(1799)	絹本着色	1幅	歸空庵蔵	
117	前	鴛鴦図	佐竹義文	文化元年(1804)	絹本着色	1幅	個人蔵	
118	後	柳に翡翠図	佐竹義文	江戸時代		紙本淡彩	1幅	神戸市立博物館
119	前後	花葉集	佐竹義文	文政5年(1822)	紙・墨・植物	2冊	個人蔵	
120	前	老子騎牛図(太上老君之画像)	小田野直林	江戸時代	18~19世紀	紙本着色	1幅	神戸市立博物館
121	後	唐美人図	小田野直林	江戸時代	18~19世紀	紙本着色	1幅	個人蔵
122	前	富嶽山頂図	白雲	文化5年(1808)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館	
123	後	鉄拐仙人図	白雲	享和3年(1803)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館	
124	前	渡唐天神図	無款	江戸時代		紙本着色	1幅	個人蔵
125	前	荻津勝孝夫妻像	荻津勝孝	江戸時代	18~19世紀	紙本着色	2点	秋田市立千秋美術館
126	後	張良・韓信図	荻津勝孝	江戸時代	18~19世紀	紙本墨画淡彩	対幅	個人蔵
127	前後	蝦蟇仙人図	無款	江戸時代		絹本着色	1面	秋田県立近代美術館
128	前後	牡丹に蝶・菊花に螭螂	佐々木原善	江戸時代	18世紀	絹本着色	対幅	秋田県立近代美術館
129	前	虎図	佐々木原善	寛政9年(1797)	紙本墨画淡彩	1幅	個人蔵	
130	後	笹鯉図	佐々木原善	寛政5年(1793)	絹本着色	1幅	個人蔵	
131	前後	花鳥押絵貼屏風	佐々木原善	寛政6年(1794)	紙本墨画淡彩	6曲1双	秋田県立近代美術館	
132	前	梅図	戸村後草園	江戸時代	18~19世紀	絹本着色	1幅	個人蔵
133	前	花鳥	佐々木原善	江戸時代	18世紀	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館
134	前	極彩色花鳥御画(対幅の内左)	戸村後草園	天保2年(1831)	絹本着色	対幅の内左	個人蔵	
135	後	花鳥図(南蘋模写)	戸村後草園	文政10年(1827)	絹本着色	1幅	個人蔵	
136	後	花鳥	戸村後草園	文政10年(1827)	紙本墨画淡彩	1幅	秋田県立近代美術館	
137	後	極彩色花鳥御画(対幅の内右)	戸村後草園	天保12年(1841)	絹本着色	対幅の内右	個人蔵	
138	前後	花鳥図屏風	戸村後草園	江戸時代	18~19世紀	絹本着色	6曲1双	大仙市 鈴木松右衛門
139	後	唐美人奏楽	伝 小田野直林	江戸時代	18~19世紀	紙本着色	1幅	秋田県立近代美術館
140	前後	日本洋画曙光	平福百穂	昭和5年(1930)	印刷	1冊	秋田県立近代美術館	
141	前後	富貴草	平福百穂	大正~昭和初期		絹本着色	1幅	秋田県立近代美術館

※No. 120 秋田県指定文化財 No. 138 大仙市指定文化財

## ◇関連記事

### 【新聞・雑誌等】

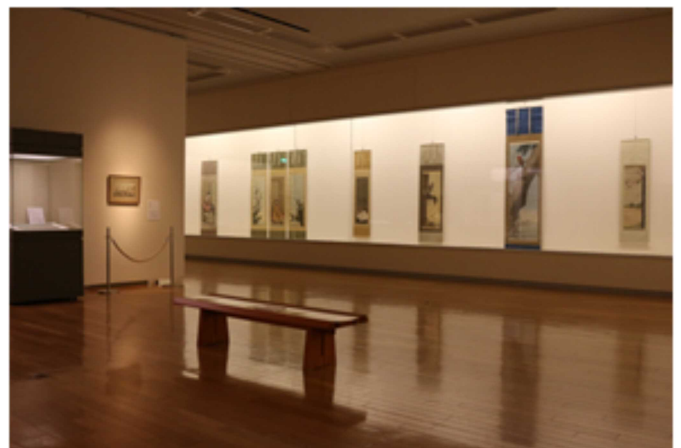
『秋田魁新報』	「時を超えて 秋田蘭画の世界」5回連載	9/14～9/28
『秋田魁新報』	「秋田蘭画の世界を堪能 特別展 県立近代美術館で開幕」	9/18
『秋田魁新報』	「こども新聞」	9/21
『秋田魁新報』	「社説 北斗星「秋田蘭画の世界」展関連記事」	9/25
『秋田魁新報』	特別展「秋田蘭画の世界」広報記事	9/28
『marimari』	「アート探訪」	9/30
『秋田魁新報』	「美を知る 181」	10/12
『北麓新聞』	イベント紹介	10/13
『秋田魁新報』	事業ガイド	10/29

### 【テレビ・ラジオ】

ABS秋田放送	「news every」	9/19、10/19
ABS秋田放送	「インフォーマーシャル」	10/5、10/12、10/19、10/26
ABS秋田放送	「まちなかSESSIONエキマイク」	10/6
NHKEテレ	「アートシーン」	10/30、11/6

### 【Web】

美術展ナビ  
アートアジェンダ  
インターネットミュージアム  
TOKYO ART BEAT



展示室の様子

iv. 特別展

没後20年 佐々木裕久展  
一闇を研ぐ、想いが舞うー

会 期 2022(令和4)年11月19日(土)  
 ~2023(令和5)2月5日(日)【64日間】  
 年末休館 : 12月29日(木)~1月 2日(月)  
 メンテナンス休館: 1月17日(火)~1月26日(木)

主 催 秋田県立近代美術館  
 企画協力 仙北市立角館町平福記念美術館  
 後 援 横手市/横手市教育委員会/秋田魁新報社/朝日新聞秋田総局/  
 毎日新聞秋田支局/読売新聞秋田支局/河北新報社/  
 産経新聞秋田支局/日本経済新聞社秋田支局/横手経済新聞/  
 NHK秋田放送局/ABS秋田放送/AKT秋田テレビ/  
 AAB秋田朝日放送/エフエム秋田/横手かまくらFM/  
 エフエムゆーとぴあ/FMはなび

担 当 木村雅洋、鈴木秀一



2002(平成14)年に病により60歳で亡くなった、日本画家・佐々木裕久の画業を紹介する展覧会。今回は佐々木が少年時代を過ごしたゆかりの地・仙北市角館町の平福記念美術館から49点の作品を、遺族からはスケッチや装丁を手がけた書籍などをお借りして展示を構成した。当館で所蔵する12点の作品を含めて、初期から晩年に至る創作の軌跡をご紹介するという流れである。

黒という色彩、そして自らが編み出した色を研ぎ出すという表現にこだわり、数多くの作品を生み出した佐々木裕久。天地創造をテーマに生命の有り様を問いかけるというその作風は、モチーフこそ変化を見せたが終始一貫しており、見る人に壮大なスケールとブレない芯の強さを感じさせてくる。没後から早20年が経ち、佐々木の作品を初めて見たという人たちも多かったが、その魅力は十分に伝わっていたようだった。

第1展示室 第1章：初期作品～霊家族

No	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)	出品展覧会
1	題不詳(百合)		紙本着色 額装	52.7×38.0	
2	題不詳(グラジオラス)		紙本着色 額装	51.5×72.8	
3	題不詳(街景)		紙本着色 額なし	66.7×90.8	
4	題不詳(風景)		紙本着色 額装	91.0×110.0	
5	題不詳(切り株)		紙本着色 額装	72.5×103.4	
6	題不詳(コンビナート)		紙本着色 額装	91.6×120.3	
7	自画像(I)	1964(昭和39)年	紙本着色 額装	72.5×52.0	
8	題不詳(建物)	1965(昭和40)年	紙本着色 額装	67.0×52.6	
9	題不詳(牛の頭骨)	1964(昭和39)年	紙本着色 額なし	80.3×114.0	
10	題不詳(貝)	1960年代	紙本着色 額装	66.2×90.8	
11	題不詳(野菜)	1964(昭和39)年	紙本着色 額装	71.8×91.7	
12	起源	1964(昭和39)年	紙本着色 額装	84.4×46.5	
13	題不詳	1966(昭和41)年	紙本着色 額装	60.1×71.6	
14	破船と月(仮題)	1960年代	紙本着色 額装	52.6×74.7	
15	題不詳(破船と月)	1960年代	キャンバス地・着色 額なし	136.5×181.5	
16	人物と壺(仮題)	1960年代	紙本着色 額装	103.4×72.8	
17	三人の人物(仮題)	1960年代	合板・着色 額装	72.5×51.5	
18	霊家族(翳)	1967(昭和42)年	紙本着色 額装	133.5×178.3	第9回秋田県美術展
19	霊家族(II)	1966(昭和41)年	紙本着色 額装	110.0×85.7	第30回新制作展
20	霊家族(I)	1960年代	紙本着色 額装	88.3×112.7	

No. 14、16、17、18は秋田県立近代美術館所蔵 それ以外は仙北市角館町平福記念美術館蔵

## 第2展示室 第2章：天と地の対話～地の華

No	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	出品展覧会
21	霊家族・鳥	1967(昭和42)年	紙本着色 額装	146.9×198.2	第31回新制作展
22	題不詳		紙本着色 額装	51.5×72.8	
23	天と地の対話―誕	1969(昭和44)年	紙本着色 額装	221.2×167.8	第33回新制作展・新作家賞
24	天と地の対話―連	1971(昭和46)年	紙本着色 額装	163.6×120.5	
25	天と地の対話	1969(昭和44)年	紙本着色 額装	89.3×115.4	第21回新制作春季展・春季展賞
26	天と地の対話 (6-I)	1968(昭和43)年	紙本着色 額装	120.1×164.0	第32回新制作展・新作家賞
27	天と地の対話―氣	1970(昭和45)年	紙本着色 額装	152.0×117.9	山種美術館 今日の日本画展
28	天と地の対話―流・I	1970年代	紙本着色 額装	119.0×327.4	
29	天と地の対話―誕III	1970(昭和45)年	紙本着色 額装	130.2×359.5	
30	題不詳 (天と地の対話)	1970年代	紙本着色 額装	120.0×330.6	
31	樹と鳥の神話 (II)	1975(昭和50)年	紙本着色 額装	172.0×183.0	第2回創画展
32	波紋の中の沈黙	1973(昭和48)年	紙本着色 額装	168.5×181.0	第37回新制作展
33	地の華―果てしなく長い夜―	1972(昭和47)年	紙本着色 額装	119.0×329.5	第36回新制作展
34	地の神々の背光	1973(昭和48)年	紙本着色 額装	164.5×231.3	第37回新制作展
35	地の華―凍結した夜	1973(昭和48)年	紙本着色 額装	120.0×165.2	第2回山種美術館賞展

No. 21、23、35は秋田県立近代美術館所蔵 それ以外は仙北市角館町平福記念美術館蔵

## 第3展示室 第3章：惑星になった鳥たち～鳥偲考

No	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	出品展覧会
36	軌跡	1976(昭和51)年	紙本着色 額装	110.5×84.7	第3回創画展
37	惑星になった鳥たち	1976(昭和51)年	紙本着色 額装	110.0×85.0	第2回春季創画展
38	惑星になった鳥達	1973(昭和48)年	紙本着色 額装	89.3×266.5	
39	鳥偲考―瞑	1978(昭和53)年	紙本着色 額装	117.5×91.5	第4回春季創画展
40	鳥偲考―韻	1979(昭和54)年	紙本着色 額装	166.7×237.0	第6回創画展
41	鳥偲考	1979(昭和54)年	紙本着色 額装	117.0×184.0	第1回昭和世代展
42	鳥偲考―球景	1979(昭和54)年	紙本着色 額装	142.3×203.7	第6回創画展
43	鳥偲考―飛翔	1979(昭和54)年	紙本着色 額装	173.5×298.0	第1回野武士展
44	鳥偲考		紙本着色 額装	113.5×169.2	
45	鳥偲考―叫涯	1980(昭和55)年	紙本着色 額装	290.0×175.0	第2回野武士展
46	鳥偲考―幻視	1983(昭和58)年	紙本着色 額装	170.5×220.5	第10回創画展
47	鳥偲考―博物誌		紙本着色 額装	112.0×86.5	
48	鳥偲考―予兆	1984(昭和59)年	紙本着色 額装	180.0×300.0	第1回横の会展

No. 39、40、46は秋田県立近代美術館所蔵 それ以外は仙北市角館町平福記念美術館蔵

## 第4展示室 第4章：幻視断層～冬の蜃気楼

No	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	出品展覧会
49	幻視断層―R236	1984(昭和59)年	紙本着色 額装	226.0×173.0	第11回創画展
50	幻視断層―R103	1985(昭和60)年	紙本着色 額装	162.0×227.5	第12回創画展
51	幻視断層	1989(平成元年)	紙本着色 額装	162.0×324.0	第16回創画展
52	幻視断層―方舟	1987(昭和62)年	紙本着色 額装	194.0×236.5	第14回創画展
53	幻視断層―E105II	1987(昭和62)年	紙本着色 額装	148.0×363.5	第4回横の会展
54	幻視断層―鳥碑	1991(平成3)年	紙本着色 額装	71.1×98.5	第17回春季創画展
55	幻視断層―夜想譜	1993(平成5)年	紙本着色 額装	145.0×112.0	第10回横の会展
56	幻視断層―タルチョ	1993(平成5)年	紙本着色 額装	145.0×112.0	第10回横の会展
57	幻視考―window	1996(平成8)年	紙本着色 額装	78.0×86.3	第22回春季創画展
58	冬の蜃気楼	1999(平成11)年	紙本着色 額装	116.7×80.3	第25回春季創画展
59	冬の蜃気楼―Wind	2001(平成13)年	紙本着色 額装	162.0×281.0	第28回創画展
60	冬の蜃気楼	1999(平成11)年	紙本着色 額装	162.0×281.0	第26回創画展
61	スピカ幻想	1980年代	紙本着色 額装	129.5×79.7	
62	エスキース (天と地の対話)		紙 コンテ	14.0×19.7	
63	エスキース (幻視断層 '84)	1984(昭和59)年	紙 ペン	25.5×18.0	
64	エスキース (冬の蜃気楼―Wind)	2001(平成13)年	紙 鉛筆	13.0×21.0	

- |    |               |      |           |
|----|---------------|------|-----------|
| 65 | カット (猛禽類)     | 紙 ペン | 12.0×15.7 |
| 66 | カット (角館 桧木内川) | 紙 ペン | 12.0×15.7 |
| 67 | カット (角館 大威徳山) | 紙 ペン | 12.0×15.7 |
- No. 50、58は秋田県立近代美術館所蔵 No. 62～67は個人蔵 それ以外は仙北市角館町平福記念美術館蔵

◇関連記事

【新聞・雑誌等】

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 『秋田魁新報社』 美を知る 188 | 11/30        |
| 『marimari』 アート探報  | 1/6          |
| 『郷』 Vol.152       |              |
| 『どあっぷなう』          | 1月号          |
| 『ギャラリー』           | 2023年 Vol.12 |



展示室の様子



V. 企画展

横山津恵デッサン展

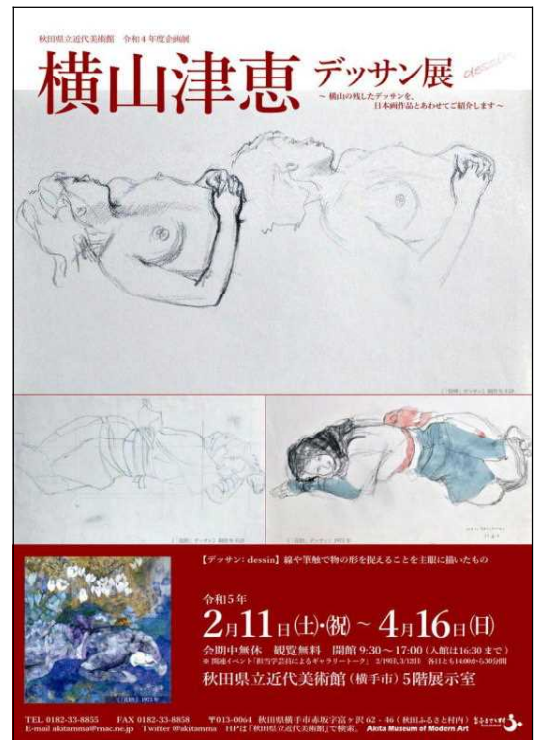
会 期 2023(令和5)年2月11日(土)～4月16日(日)【65日間】

主 催 秋田県立近代美術館

担 当 藤井正輝 保泉充

秋田市出身の日本画家・横山津恵（1916-2007）のデッサン展を開催した。師・高橋萬年の教え「写生に徹せよ」を守り通し、およそ50年間に及ぶ画業で横山は多くのデッサンを残している。本展では60点を超えるデッサン・下図と、40点の日本画を時代順に配置するとともに、高橋萬年の下図・作品をはじめ、新樹社のメンバーだった舘岡栗山、桜庭藤二郎、堀川達三郎、特に親交の深かった山口静恵らの作品もご覧いただいた。また、デッサンの中には近年新たに寄贈されたものもあり、最初期の作品《髪》の下図などは、今回初めて本画と並べて紹介することができた。

会期中はギャラリートークを2回開催し、計39名の方にご参加いただいた。



第1展示室（横山：31歳～42歳）

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	横山津恵	下図(髪)	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	80.0 × 58.0
2	横山津恵	髪	1947(昭和22)	紙本着色	88.0 × 57.4
3	横山津恵	デッサン(椅子に座る少女)	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	54.2 × 79.0
4	横山津恵	下図(椅子に座る少女)	制作年不詳	紙/鉛筆・墨・淡彩	51.8 × 51.5
5	横山津恵	淳子	1949(昭和24)	紙本着色	151.0 × 91.0
6	横山津恵	デッサン(三人)	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	36.5 × 52.3
7	横山津恵	デッサン(横たわるポーズ)	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	50.8 × 70.0
8	横山津恵	デッサン(三人)4点	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	各33.8 × 24.5
9	横山津恵	デッサン(横たわるポーズ)	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	48.0 × 78.9
10	高橋萬年	下図(馬屋)	制作年不詳	紙本着色軸装	167.2 × 167.7
11	高橋萬年	馬屋	制作年不詳	屏風(2曲1隻)	173.0 × 173.0
12	横山津恵	椅子	1950(昭和25)	紙本着色	149.0 × 170.0
13	横山津恵	草の上	1953(昭和28)	紙本着色	125.5 × 119.0
14	横山津恵	デッサン《少女》	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	38.0 × 54.0
15	横山津恵	苗の頃	1958(昭和33)	紙本着色	175.7 × 211.2
16	横山津恵	デッサン(苗の頃)	制作年不詳	紙/鉛筆	各36.0 × 25.5
17	横山津恵	デッサン(蛙)2点	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	各36.0 × 25.5
18	横山津恵	蛙	1957(昭和32)	紙本着色	197.0 × 167.0
19	堀川達三郎	ひとり	1995(平成7)	紙本着色	33.5 × 45.5
20	舘岡栗山	八郎瀉一市	制作年不詳	紙本着色	65.5 × 78.5
21	桜庭藤二郎	凍河に春が	制作年不詳	紙本着色	116.7 × 90.9
22	桜庭藤二郎	デッサン2点	制作年不詳	紙/鉛筆・淡彩	55.0 × 38.5、38.5 × 50.7

第2展示室（横山：49歳～58歳）

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
23	横山津恵	デッサン(犬コ市)2点	制作年不詳	紙/鉛筆	各34.5 × 45.0
24	横山津恵	犬コ市	1966(昭和41)	紙本着色	227.0 × 181.5
25	横山津恵	湖の譚	1965(昭和40)	紙本着色	227.0 × 181.7

26	横山津恵	なまはげのくる日	1969(昭和44)	紙本着色	151.5 × 76.2
27	横山津恵	なまはげのくる日	1969(昭和44)	紙本着色	122.0 × 60.5
28	横山津恵	なまはげのくる日	1969(昭和44)	紙本着色	151.7 × 75.5
29	横山津恵	デッサン (北国)	制作年不詳	紙/鉛筆・コンテ	27.0 × 38.0
30	横山津恵	デッサン (女たち)	制作年不詳	紙/鉛筆・コンテ	各45.0 × 34.5
31	横山津恵	北国	1969(昭和44)	紙本着色	181.0 × 227.0
32	横山津恵	女たち	1970(昭和45)	紙本着色	172.0 × 217.4
33	横山津恵	デッサン (海の譜) 4点	1971(昭和46)	紙/鉛筆	51.7 × 36.5(2点) 54.0 × 38.0(2点)
34	横山津恵	デッサン (花の譜) 3点	1972(昭和47)	紙/鉛筆	各38.0 × 54.0
35	横山津恵	海の譜	1971(昭和46)	紙本着色	180.0 × 225.5
36	横山津恵	花の譜	1972(昭和47)	紙本着色	182.0 × 227.3
37	横山津恵	双生	1971(昭和46)	紙本着色	105.0 × 105.0
38	横山津恵	花陰	1973(昭和48)	紙本着色	106.5 × 106.4
39	横山津恵	花埋み	1974(昭和49)	紙本着色	103.0 × 102.9
40	横山津恵	デッサン (花陰) 2点	1973(昭和48)	紙/鉛筆・淡彩	36.5 × 51.7、38.0 × 54.0
41	横山津恵	デッサン (猫) 2点	1948(昭和23)	紙/鉛筆・淡彩	24.5 × 33.5
42	横山津恵	華と猫	1973(昭和48)	紙本着色	182.3 × 227.7
43	横山津恵	五月の花	1974(昭和49)	紙本着色	172.3 × 217.5
44	横山津恵	デッサン (華と猫)	制作年不詳	紙/鉛筆	38.0 × 54.0
45	横山津恵	デッサン (五月の花) 2点	制作年不詳	紙/鉛筆	23.0 × 33.0、23.0 × 30.0

### 第3展示室 (横山：59歳～71歳)

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
46	横山津恵	野	1976(昭和51)	1976(昭和51)	164.1 × 209.5
47	横山津恵	デッサン (野) 2点	1975(昭和50)	1975(昭和50)	各38.0 × 54.5
48	横山津恵	白杵曼荼羅	1978(昭和53)	1978(昭和53)	174.0 × 219.0
49	横山津恵	デッサン (らふねはん) 4点	1978(昭和53)	1978(昭和53)	24.0×33.0、38.0×54.5(3点)
50	山口静恵	菩薩像	制作年不詳	制作年不詳	227.3 × 181.8
51	横山津恵	デッサン (横臥裸婦) 2点	1977(昭和52)	1977(昭和52)	各38.0 × 54.0
52	横山津恵	横臥裸婦	1977(昭和52)	1977(昭和52)	172.8 × 218.0
53	横山津恵	デッサン (沖縄の踊り子)	1975(昭和50)	1975(昭和50)	38.0 × 54.5
54	横山津恵	沖縄の踊り子	1979(昭和54)	1979(昭和54)	97.5 × 103.3
55	横山津恵	デッサン (珊瑚礁Ⅱ)	1978(昭和53)	1978(昭和53)	各38.0 × 54.5
56	横山津恵	珊瑚礁Ⅱ	1980(昭和55)	1980(昭和55)	89.2 × 101.0
57	横山津恵	デッサン (沖縄の踊り子) 2点	1978(昭和53)	1978(昭和53)	各33.0 × 24.0
58	横山津恵	デッサン (珊瑚礁Ⅰ)	1979(昭和54)	1979(昭和54)	38.0 × 54.0
59	横山津恵	珊瑚礁Ⅰ	1979(昭和54)	1979(昭和54)	174.0 × 222.2
60	横山津恵	デッサン (珊瑚礁Ⅵ) 3点	1981(昭和56)	1981(昭和56)	各38.0 × 54.0
61	横山津恵	珊瑚礁Ⅵ	1981(昭和56)	1981(昭和56)	175.3 × 220.0
62	横山津恵	珊瑚礁Ⅷ	1985(昭和60)	1985(昭和60)	159.8 × 217.0
63	横山津恵	デッサン (珊瑚礁Ⅷ) 2点	1985(昭和60)	1985(昭和60)	各38.0 × 54.0
64	横山津恵	珊瑚礁Ⅸ	1987(昭和62)	1987(昭和62)	181.0 × 227.0
65	横山津恵	デッサン(珊瑚礁Ⅴ KARTHI・カステイ)	1980(昭和55)	1980(昭和55)	45.0 × 34.5
66	横山津恵	珊瑚礁Ⅴ	1981(昭和56)	1981(昭和56)	145.5 × 69.7
67	横山津恵	デッサン (珊瑚礁Ⅳ) 2点	1980(昭和55)	1980(昭和55)	各38.0 × 54.0
68	横山津恵	珊瑚礁Ⅳ	1981(昭和56)	1981(昭和56)	130.3 × 162.1

## 第4展示室（横山：68歳～77歳）

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
69	横山津恵	更紗裸婦	1985(昭和60)	紙本着色	65.2 × 91.0
70	横山津恵	浜ひるがお	1986(昭和61)	紙本着色	146.0 × 70.1
71	横山津恵	デッサン（浜ひるがお）2点	制作年不詳	紙／鉛筆	33.0 × 23.0、23.0 × 33.0
72	横山津恵	デッサン（少女横臥）5点	1984(昭和59)	紙／鉛筆	各38.0 × 54.0
73	横山津恵	少女横臥	1984(昭和59)	紙本着色	172.5 × 211.2
74	横山津恵	風の声	1988(昭和63)	紙本着色	91.0 × 60.6
75	横山津恵	花籠	1990(平成2)	紙本着色	88.5 × 102.5
76	横山津恵	エレエヌ	1991(平成3)	紙本着色	91.0 × 60.6
77	横山津恵	夕月の巴里	1991(平成3)	紙本着色	143.8 × 72.2
78	横山津恵	続エレエヌ	1992(平成4)	紙本着色	65.2 × 100.0
79	横山津恵	デッサン（燈燐）	制作年不詳	紙／鉛筆	24.0 × 31.0
80	横山津恵	デッサン（少女横臥）	制作年不詳	紙／鉛筆	24.0 × 31.0
81	横山津恵	デッサン（燈燐ふたたび）	制作年不詳	紙／鉛筆	24.0 × 32.0
82	横山津恵	燈燐ふたたび	1993(平成5)	紙本着色	96.0 × 106.0

※ この他に、展示作品と直接関連性のないデッサン数十枚やスケッチブック等の資料もあわせて展示した。

### 関連記事

#### 【新聞・雑誌等】

『読売新聞』	1/25
『秋田魁新報』 美を知る 198	2/15
『河北新報』 「東北の美術館・博物館」	2/23
『marimari』 「アート探訪」	3/3
『秋田魁新報』 県南版「横山津恵デッサン展」	3/12
『ra・kra（ラ・クラ）』	2023 1・2月号

#### 【テレビ・ラジオ】

あきたびじょん	3月放送
---------	------

#### 【Web】

ウォーカープラス (Walkerplus)  
 アートアジェンダ (ART AgendA)  
 美術手帖 web  
 TOKYO ART BEAT  
 いこーよ  
 BIGLOBE旅行  
 ハイウェイウォーカー (Highway Walker)



展示室の様子



i. 2022コレクション展 第I期

描かれた気象

会期：2022(令和4)年4月13日(水)～7月3日(日) 【82日間】

担当：木村雅洋

ギャラリートーク：4月17日(日)、6月19日(日) 各日14:00開始

※秋田蘭画の展示なし



第1展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	小室 怡々 齋	嵐峡桜花	—	紙本着色 墨画 淡彩	135.0×54.0
2	平福 穂山	嵐山	1870(明治3)	紙本着色 墨画 襖 (6面)	各167.6×82.1
3	寺崎 廣業	絶峰催春	—	絹本着色 墨画	137.0×56.0
4	寺崎 廣業	瀟湘八景	1912(大正元)	紙本着色	各52.1×86.8
5	寺崎 廣業	白馬雪溪	1917(大正6)	絹本着色	184.8×86.4
6	横山 大観	春曙・秋雨	1913(大正2)	絹本着色 (対幅)	各120.0×41.0
7	寺崎 廣業	王摩詰	1907(明治40)	絹本着色	165.0×84.5
8	寺崎 廣業	淵明撫松	1910(明治43)	絹本着色	198.0×58.0
9	寺崎 廣業	羅浮仙図	1913(大正2)	絹本着色	226.0×56.5
10	—	資料『絵画叢誌』第二百四十四卷	1907(明治40)	東陽堂 雑誌	33.0×22.3

第2展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
11	増田 象江	蓬萊山水	1883(明治16)	紙本着色 墨画 淡彩 (3幅対)	各133.0×31.5
12	西宮 礼和	赤壁の賦	1903(明治36)	紙本着色 墨画 淡彩	102.5×42.5
13	平福 百穂	彩雲	1920(大正9)	絹本着色	72.0×86.0
14	平福 百穂	細雨	—	紙本着色 淡彩	131.0×33.5
15	結城 素明	春秋山水	昭和初期	絹本着色 (対幅)	各126.0×46.0
16	平福 百穂	五月雨	—	絹本着色 墨画 淡彩	140.0×35.0
17	平福 百穂	夏雨晴霽	—	紙本着色 墨画 淡彩	133.5×33.5
18	平福 百穂	溪山雨後	—	紙本着色 墨画 淡彩	32.7×132.5
19	平福 百穂	水雲深處	—	紙本着色 墨画	48.0×59.5
20	平福 百穂	朝露	1915(大正4)頃	紙本着色 墨画 6曲1隻	134.9×268.6
21	平福 百穂	江天暮雪	1927(昭和2)	紙本着色	137.5×45.0
22	平福 百穂	杜鵑夜	1929(昭和4)	紙本着色 墨画	126.0×59.0
23	平福 百穂	春山	1933(昭和8)	紙本着色 墨画 淡彩	91.0×104.0
24	平福 百穂	耶馬溪	1909(明治42)	紙本着色 墨画 淡彩 (1冊)	22.6×31.2
25	平福 百穂	書画帖	—	紙本 (1冊)	23.0×33.0
26	徳富 蘇峰	資料『山水随縁記』	1914(大正3)月	民友社 書籍	19.0×15.0
27	平福 百穂	資料『不二一周』	1907(明治40)	隆文館 雑誌	25.8×18.5
28	福田 豊四郎	樹氷	1937(昭和12)	紙本着色 4曲1隻	210.5×371.0
29	高橋 清見	雪明り	1995(平成7)	紙本着色	180.0×223.0
30	高橋 清見	月明り	1996(平成8)	紙本着色	195.0×195.0
31	堀川 達三郎	暮彩	1987(昭和62)	岩絵具、キャンバス	175.1×221.2
32	高橋 清見	水門	1976(昭和51)	紙本着色	222.5×169.6
33	松井 如流	風	1967(昭和42)	紙本着色 墨書	69.0×68.0
34	松井 如流	虹	1971(昭和46)	紙本着色 墨書	70.0×70.0

第3展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
35	伊藤 弥次	汐瀬崎(男鹿の春)	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	97.0×162.1
36	伊藤 博次	うみとすなと	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	97.0×130.3
37	伊藤 博次	ある日	1973(昭和48)	油彩、キャンバス	116.7×80.3
38	金子 義徳	郊外	1991(平成3)	油彩、キャンバス	193.9×97.0
39	斎藤 寅彦	蛸壺	2010(平成22)	油彩・アキーラ、キャンバス	変形30号
40	斎藤 寅彦	時の跡2002年3月31日	2002(平成14)	油彩、キャンバス	181.8×227.3
41	佐々木 良三	痕跡 A	1980(昭和55)	油彩、キャンバス	193.9×162.1
42	高橋 功	キサカタに雲と稲妻/黄	2002(平成14)	油彩、木	41.1×45.0
43	高橋 功	コスモス・2	2004(平成16)	油彩、木	54.8×51.0
44	高橋 功	秋田の冬	2004(平成16)	油彩、木	58.0×41.7
45	村上 善男	津軽赤倉山西南一帯釘打ちの圖(甲)	1997(平成9)	ミクストメディア、キャンバス	50.3×60.1
46	村上 善男	馬之字への津軽発信	2001(平成13)	ミクストメディア、キャンバス	97.5×162.5
47	笠原 幸生	日没空 2012	2012(平成24)	ホワイトブロンズ	45.0×40.0×30.0
48	峯田 義郎	旅・ひとり	1993(平成5)	ブロンズ	72.0×118.0×26.0
49	三村 治男	朝の海	1981(昭和56)	木版、紙	54.0×37.0
50	三村 治男	尾瀬ヶ原 六月初旬	1986(昭和61)	木版、紙	54.0×38.0
51	三村 治男	尾瀬ヶ原 十月早朝	1985(昭和60)	木版、紙	54.0×37.0
52	三村 治男	尾瀬沼朝	1995(平成7)	木版、紙	26.0×56.0
53	三村 治男	日が昇るころ	1982(昭和57)	木版、紙	24.0×56.0
54	三村 治男	残照	1989(平成元)	木版、紙	23.0×56.0
55	三村 治男	霧ヶ峰から富士山を望む	1980(昭和55)	木版、紙	28.5×56.0

関連記事 【新聞・雑誌等】

『秋田魁新報』 「美を知る」 156  
 『郷』  
 『地域創造レター』 No. 325

4/20  
 春号  
 5/25

ii. 2022コレクション展 第Ⅱ期

夏を見る

会期：2022(令和4)年7月6日(水)～10月2日(日) 【89日間】

担当：鈴木秀一

ギャラリートーク：7月10日(日)、9月11日(日) 各日14:00開始

※秋田蘭画の展示なし



第1展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	舘岡栗山	竿灯	—	紙本着色 額装	193.9×130.3
2	葛西康	ねぶた祭	—	油彩、キャンバス	162.1×130.3
3	葛西康	花火 A	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	194.0×130.0
4	葛西康	花火 B	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	194.0×130.0
5	福田豊四郎	水辺の夏	1931(昭和6)	絹本着色 額装	245.0×175.5
6	福田豊四郎	海濱	1936(昭和11)	紙本着色 額装	209.5×236.2
7	福田豊四郎	月夜	1954(昭和29)	紙本着色 4曲1隻	166.7×257.5
8	福田豊四郎	夏郷	1934(昭和9)	紙本着色 2曲1隻	218.8×178.6
9	福田豊四郎	南瓜と少年	1935(昭和10)	紙本着色 額装	125.5×96.2
10	福田豊四郎	紅蓮の座・池心座主	1970(昭和45)	紙本着色 額装	各45.0×45.0
11	高橋萬年	午睡	1954(昭29)	紙本着色 額装	42.5×64.0
12	高橋萬年	飯詰児	—	絹本着色 軸装	139.5×50.9
13	高橋萬年	夏の午後	—	絹本着色 軸装	119.0×35.5

第2展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
14	寺崎廣業	不忍池畔	1894(明治27)	絹本着色 軸装	49.1×67.8
15	横山大観	雲中富士	1915(大正4)頃	紙本金地着色 2曲1双	各169.0×178.0
16	平福百穂	菜圃	1920(大正9)	絹本裏箔着色 2曲1双	各147.8×162.8
17	平福百穂	柘榴小禽	1933(昭和8)	紙本墨画淡彩 軸装	46.6×59.3
18	奈良裕功	桃実る	大正末-昭和初期	絹本着色 2曲1隻	174.0×201.0
19	西宮礼和	枇杷	—	紙本墨画淡彩 軸装	33.5×38.0
20	伊藤弥太	香魚松茸図	—	絹本着色 額装	38.0×45.5
21	高橋清見	水無月の頃	1991(平成3)	紙本着色 額装	181.8×227.3
22	高橋清見	朝顔	1984(昭和59)	紙本着色 額装	186.0×224.0
23	伊藤弥太	象潟の初夏	1969(昭和44)	油彩、キャンバス	130.3×162.1
24	山形八郎	潮音(A)	1984(昭和59)	油彩、キャンバス	130.3×162.1
25	一木惇	夏	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	45.5×53.2
26	伊藤博次	晩夏(雄物川)	1978(昭和53)	油彩、キャンバス	89.4×130.3
27	伊藤博次	晩夏	1987(昭和62)	油彩、キャンバス	80.3×116.7
28	山形八郎	晩夏(A)	1992(平成4)	油彩、キャンバス	130.3×162.1

第3展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
29	勝平得之	(秋田十二景)夜の秋田大橋	1938(昭和13)	木版、紙	22.6×29.6
30	勝平得之	(千秋公園八景)蛇柳夜景	1935(昭和10)	木版、紙	22.4×29.7
31	勝平得之	送り盆(横手)	1940(昭和15)	木版、紙	59.0×86.2
32	勝平得之	七夕(湯沢)	1937(昭和12)	木版、紙	36.7×51.4
33	勝平得之	豊年盆踊(西馬音内)	1948(昭和23)	木版、紙	40.0×127.0
34	佐々木良三	限界海域のものたち	1983(昭和58)	油彩・キャンバス	162.0×162.0
35	佐々木良三	北部日本海の異変	1991(平成3)	油彩・キャンバス	194.0×162.0
36	佐々木良三	漂うものたち	1984(昭和59)	油彩・キャンバス	162.0×162.0
37	秩父和平	鏡の前の少女	1953(昭和28)	油彩、キャンバス	61.5×50.8
38	秩父和平	ミシンの女	1950(昭和25)頃	油彩、キャンバス	60.5×45.4
39	河津胖子	夏の終わり	1997(平成9)	紙本着色 額装	102.0×102.0
40	峯田敏郎	由比ヶ浜の夏	1976(昭和51)	ブロンズ	55.0×20.0×12.0
41	日高頼子	渚の音	1977(昭和52)	ブロンズ	17.0×26.0×10.0
42	日高頼子	海辺	1983(昭和58)	ブロンズ	25.0×42.0×20.0
43	中村征夫	熱帯夜 8点	1998(平成10)	写真プリント	各61.5×76.5

iii. 2022コレクション展 第三期

山粧いて山眠るー秋から冬の景色ー

会期：2022(令和4)年10月5日(水)～2023(令和5)年1月4日(水) 【87日間】

※休館日 2022(令和4)年12月29日～2023(令和5)年1月2日

担当：秋田達也

ギャラリートーク：10月15日(土)、12月11日(日) 各日14:00開始

※秋田蘭画の展示なし



山粧うー秋の景色ー

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	員数	寸法(cm)
1	寺澤孝太郎	花鳥	—	絹本着色	1幅	165.0×79.0
2	寺崎廣業	高山清秋	1914(大正3)	絹本着色	6曲1双	各168.2×364.2
3	佐々木英	蒔絵彩切貝水指「秋の日」	1978(昭和53)	銅・キハダ・彩切貝	1合	径15.5×高20.0
4	高橋萬年	初秋	—	絹本着色	1幅	126.0×34.0
5	福田豊四郎	山湖初秋	—	紙本着色	1幅	40.0×51.5
6	荘司福	秋立つ	1946(昭和21)	紙本着色	1面	138.5×124.0
7	柴田春光	狭布の里	1928(昭和3)	絹本着色	2曲1隻	160.4×226.8
8	高橋萬年	田	—	紙本着色	2曲1双	各168.8×170.2
9	福田豊四郎	案山子を立てる人	1931(昭和6)	紙本着色	1面	176.0×70.4
10	勝平得之	(千秋公園八景)眺望台の秋	1937(昭和12)	木版・紙	1枚	22.4×29.7
11	勝平得之	(千秋公園八景)本丸晩秋	1933(昭和8)	木版・紙	1枚	22.4×29.7
12	勝平得之	(農民風俗十二ヵ月)稲刈り(9月)	1951(昭和26)	木版・紙	1枚	24.9×21.8
13	勝平得之	(農民風俗十二ヵ月)穂によ(10月)	1949(昭和24)	木版・紙	1枚	24.9×21.8
14	小野崎大凌	鶉	—	絹本着色	1幅	128.0×42.0
15	鏑木清方	秋の夜	1919(大正8)	絹本着色	1幅	140.3×50.7
16	小野崎大凌	秋草小禽	—	絹本着色	1幅	106.5×35.5
17	高橋萬年	菊	—	絹本墨画淡彩	1幅	128.5×42.0
18	桜庭藤二郎	山湖	1965(昭和40)	紙本着色	1面	169.0×216.0
19	斎藤英壺	浜	1988(昭和63)	紙本着色	1面	227.3×182.0
20	福田豊四郎	霜秋	—	絹本着色	1幅	131.1×36.3
21	平福百穂	頬白	—	紙本淡彩	1幅	47.5×58.5
22	小杉放菴	黒真珠	1935(昭和10)	紙本着色	1面	46.3×55.5
23	平福百穂	古柏栗鼠	—	絹本着色	1幅	135.5×45.0
24	福田豊四郎	山の秋	1931(昭和6)	紙本着色	6曲1双	各166.5×374.4

山眠るー冬の景色ー

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	員数	寸法(cm)
25	寺崎廣業	山谷冬里図	1917(大正6)	紙本墨画	6曲1双	各151.5×352.0
26	酒井三良	残照	1923(大正12)	絹本着色	1幅	136.0×112.0
27	寺崎廣業	谿間の雪	—	絹本墨画	1幅	175.7×72.7
28	信太金昌	冬裡宿秋	1982(昭和57)	紙本着色	1面	162.1×227.3
29	桜庭藤二郎	山河	1983(昭和58)	紙本着色	1面	208.8×164.3
30	松本弘二	雄物川の冬	1973(昭和48)	油彩、キャンバス	1面	91.0×116.7
31	勝平得之	雪国の村里	1931(昭和6)	木版、紙	1枚	28.7×41.1
32	勝平得之	河畔雪景	1934(昭和9)	木版、紙	1枚	37.6×52.2
33	勝平得之	雪国の市場	1931(昭和6)	木版、紙	1枚	29.2×42.7
34	勝平得之	雪の街	1932(昭和7)	木版、紙	1枚	36.7×51.2
35	勝平得之	雪むろ	1932(昭和7)	木版、紙	1枚	29.3×39.6
36	福田豊四郎	スキー少年	1942・3(昭和17・18)	紙本着色	1面	104.0×70.0
37	福田豊四郎	雪のきた国	1925(大正14)	紙本着色	1幅	71.8×120.9
38	福田豊四郎	雪を描く男	1929(昭和4)	紙本着色	1面	77.6×109.5
39	福田豊四郎	樹氷	1937(昭和12)	絹本着色	1面	69.8×86.2
40	福田豊四郎	雪国	1968(昭和43)	紙本着色	4曲1隻	168.7×255.6
41	内田慎蔵	枯れ葉一葉	1975(昭和50)	油彩、キャンバス	1面	90.7×116.7
42	伊藤博次	冬 C	1960(昭和35)	油彩、キャンバス	1面	145.5×97.0
43	葛西康	雪庭(寒日)	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	1面	130.0×162.0
44	葛西康	雪讃歌 D	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	1面	162.1×130.3
45	内田慎蔵	雪女の道	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	1面	116.7×90.9
46	木島恭一	冬の木(冬眠から)	1969(昭和44)	油彩、キャンバス	1面	162.2×390.9

関連記事 【新聞・雑誌等】 『秋田魁新報』 美を知る 180 10/5

iv. 2022コレクション展 第Ⅳ期  
ウサギをさがせ! Where is my rabbit?

会期：2023(令和4)年1月7日(土)～4月9日(日) 【79日間】

※休館日 1月17日(火)～26日(木)

担当：鈴木京

ギャラリートーク：1月15日(日)、2月26日(日) 各日14:00開始

※秋田蘭画の展示なし



第1展示室

No	作者名	作品名	制作年	技法材質、員数	寸法(cm)
1	樫尾直	ある風景'92 I	1992(平成4)	キャンバス・油彩、一点	116.7×116.7
2	樫尾直	ある風景'92 II	1992(平成4)	キャンバス・油彩、一点	116.7×116.7
3	平福百穂	雪中南天雀	昭和期か	紙本金地着色、一幅	33.5×56.8
4	平福百穂	梅にうそ鳥	昭和期か	紙本墨画淡彩、一幅	49.0×57.3
5	三村治男	冬の午後	1992(平成4)	紙・木版、一点	37.0×56.0
6	寺澤孝太郎	松林	1931(昭和6)	紙本墨画、二曲一隻	168.0×182.0
7	平福百穂	老松	1916(大正5)	紙本墨画、二曲一双	各180.2×162.7
8	福田豊二郎	流れと鹿	1960(昭和35)	絹本着色、四曲一隻	168.0×255.6
9	横山津恵	山のマロニエ	1975(昭和50)	紙本着色、一点	218.8×172.7
10	後藤純男	秋田駒ヶ岳	1997(平成9)	紙本着色、一点	90.5×205.5
11	河津五郎	鹿	制作年不詳	木彫、一点	高28.0×幅21.0×奥行11.2
12	川口月嶺	牛に兎	江戸後期	紙本淡彩、一幅	110.0×44.3
13	平福百穂	野兎	大正期か	紙本墨画淡彩、一幅	118.3×34.7
14	寺崎廣業	春秋	1905(明治38)頃	紙本金地着色、六曲一双	各180.0×370.0
15	下村観山	三保富士	1919(大正8)	絹本金地着色、六曲一双	各167.0×370.0
16	中村征夫	トゲアメフラシ	2012(平成24)	写真パネル、一点	60.0×90.0
17	中村征夫	ゴールデンラインドラビットフィッシュ	2010(平成22)	写真パネル、一点	48.0×70.0
18	伊藤博次	遊翔	1993(平成5)	キャンバス・油彩、一点	162.0×80.3
19	伊藤博次	砂丘	1958(昭和33)	キャンバス・油彩、一点	50.5×100.0
20	伊勢正義	異邦人	1974(昭和49)	キャンバス・油彩、一点	185.0×251.0
21	田宮進	丘(Sicilia Italia)	1964(昭和39)	キャンバス・油彩、一点	80.5×100.0
22	木島恭一	旅路 トレドの道	1970(昭和45)	キャンバス・油彩、一点	130.3×162.2
23	河村千代三	港	1957(昭和32)	キャンバス・油彩、一点	116.7×90.9
24	河村千代三	風の軌跡	1961(昭和36)	キャンバス・油彩、一点	101.5×130.5
25	伊藤甲人	星と鳥	1963(昭和38)	紙本着色、一点	49.7×60.5
26	金沢秀之助	熱帯幻想(ある壁画のために)	1960年代	キャンバス・油彩、一点	53.0×65.2
27	金沢秀之助	熱国の春(壁画習作)	1960年代	キャンバス・油彩、一点	72.7×90.9
28	小杉未醒	山湖閑亭	制作年不詳	キャンバス・油彩、一点	38.0×45.5
29	井上良斎	山水壺(平福百穂絵付け)	1921(大正10)	陶器、一点	径30.7×高33.3
30	平福百穂	緑蔭清談	1886(明治19)	紙本墨画淡彩、一幅	150.0×79.2
31	平福百穂	松景遊鹿	大正期か	紙本墨画淡彩、一幅	133.0×32.5
32	寺崎廣業	羅浮仙図	1913(大正2)	絹本着色、一幅	226.0×56.5
33	高橋萬年	弁財天	大正期か	絹本着色、一幅	124.8×50.4
34	松井如流	龍虎	1970(昭和45)	紙本墨書、組立椽	138.0×400.0
35	作者不詳	干支・辰(1988)	1987(昭和62)	左：印刷 右：紙・鉛筆	左：14.8×10.0 右：21.6×16.2
36	作者不詳	干支・巳(1989)	1988(昭和63)	左：印刷 右：紙・ペン	左：14.8×10.0 右：18.6×14.2
37	馬場彬	干支・午(1990)	1989(平成元)	左：印刷 右：紙・鉛筆・色鉛筆	左：14.8×10.0 右：18.5×14.2
38	馬場彬	干支・未(1991)	1990(平成2)	キャンバス・ミクストメディア、一点	22.4×15.5
39	馬場彬	干支・申(1992)	1991(平成3)	キャンバス・ミクストメディア、一点	22.3×15.5
40	馬場彬	干支・酉(1993)	1992(平成4)	キャンバス・油彩、一点	22.5×16.0
41	馬場彬	干支・戌(1994)	1993(平成5)	キャンバス・ミクストメディア、一点	22.5×15.7
42	馬場彬	干支・亥(1995)	1994(平成6)	上：印刷 下：紙・水彩・コンテ	上：10.0×14.8 下：22.4×34.5
43	馬場彬	干支・子(1996)	1995(平成7)	上：紙・インク 下：印刷	上：27.0×20.6 下：14.8×10.0
44	作者不詳	干支・丑(1997)	1996(平成8)	左：紙・鉛筆・色鉛筆 右：印刷	左：20.4×14.0 右：14.8×10.0
45	馬場彬	干支・寅(1998)	1997(平成9)	段ボール・鉛筆・ペン、一点	17.5×23.7
46	馬場彬	干支・卯(1999)	1998(平成10)	上：印刷 下：紙・ペン	上：10.0×14.8 下：14.0×21.3
47	馬場彬	干支・辰(2000)	1999(平成11) 1962(昭和37)	左・中央：紙・ペン 右：印刷	左：12.1×16.8 中央：11.0×16.0 右：10.0×14.8
48	松井如流	白兔遊東山		紙本墨書、一点	69.0×35.0

関連記事

【新聞・雑誌等】	『秋田魁新報』	美を知る	195	1/25
	『秋田魁新報』			2/11
	『北羽新報』			2/11
	『北鹿新聞』			2/12
【テレビ・ラジオ】	NHK秋田放送局	ニュースこまち		2/3

## 教育普及事業

誰もが気軽に足を運んで美術を楽しめる親しみやすい美術館を目指し、講演会や美術館教室、美術館講座等を開催している。また当館事業の広報活動を行うとともに、郷土作家を扱った美術番組等のハイビジョン上映、県内外の美術情報や美術館に関する図書資料の提供等、美術の情報センターとしての役割を果たす多面的な活動も行っている。

さらに、美術館を第二の学校として活用する県の事業「教育施設等のセカンドスクールの利用 ※」において学校の授業時数にカウントできる体験活動も行っている。

また距離的・時間的に気軽に来館するのが難しい県内の遠方地域に対しては、能代エナジウムパーク会場の「出前美術展」、県立図書館会場の「ネットワーク事業」を実践している。この他、木の遊具等を設置した親子で楽しく過ごせるキッズルーム開設、美術館ボランティアによる美術館案内も実施している。

※令和4年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、制作体験の受け入れは見合わせ、鑑賞・探検のみ受け入れた。また対話型による鑑賞も実施しなかった。



鑑賞の様子『没後20年 佐々木裕久展』

2022. 11. 19～2023. 2. 5

## ● キンビ・創作体験プログラム

### 美術館教室

No.	内容	期日	対象・定員	講師	日数	参加者	担当
I	工芸教室 一蒔絵で彩るー	5月14日(土) ・15日(日)	中学生以上一般 各日15名	齋藤國男 (秋田県工芸家協会会長)	各1日	計15名	保泉 鈴京
II	写真教室 ライティング撮影・現像・プリントに挑戦!	6月25日(土) ・26日(日)	中学生以上一般 各日10名	草薨裕 (秋田公立美術大学助教)	各1日	計19名	木村 秋田
III	日本画教室 好きな植物を描こう!	9月10日(土) ～11日(日)	中学生以上一般 15名	大関智子 (秋田公立美術大学助教)	全2日	12名	保泉 北島
IV	版画教室 ードライポイントで銅版画に挑戦!ー	10月22日(土) ・23日(日)	中学生以上一般 各日10名	伊藤由美子 (版画家)	各1日	計16名	藤井 北島

### みんなの教室

No.	内容	期日	対象・定員	講師	日数	参加者	担当
I	木の工作 つくろう!ぶんぼう アニマルズ! 2	7月24日(日)	小学生以上一般 10名	木村雅洋(当館学芸主事)	全1日	7名	木村 北島
II	新年に願いを込めて (絵馬・羽子板づくり)	12月4日(日)	小学生以上一般 10名	藤井正輝(当館学芸主事)	全1日	4名	藤井 鈴秀

※参加者数は保護者を含む

### きっずあーと

No.	内容	期日	対象・定員	講師	日数	参加者	担当
I	おさかなすいぞくかん	8月7日(日)	未就学児 AM・PM各回10名	鈴木秀一(当館学芸主事)	全1日 (2回)	計11名	鈴秀 北島
II	ねんどランドであそぼう	9月4日(日)	未就学児 10名	鈴木秀一(当館学芸主事)	全1日	計18名	鈴秀 木村

※参加者数は保護者を含む



## 美術館教室

### I. 工芸教室—蒔絵で彩る— 5/14・15(各1日)

参加者は各1日の参加で、2日間に渡り漆芸家の齋藤國男氏を講師に迎えて蒔絵の工芸教室を開催した。今回は講師のご厚意でポストカードサイズの板と直径15cmの丸皿に蒔絵を描く内容とした。蒔絵は、漆で文様や絵などを描き、その上に金や銀などの金属粉を蒔く技法だが、普段は経験できない体験と1日で2作品を完成させるスケジュールに、参加者はほとんど休むことなく制作に打ち込んだ。各参加者は、講師の丁寧な指導により完成した作品に大変満足するとともに、今後の工芸作品を見る目を変えてくれることとなった教室となった。



### II. 写真教室 デジタルネガからの鶏卵紙プリント 6/24・25

昨年度に引き続き、秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻助教の草薙裕氏を講師に迎え、写真教室を開催した。前回希望者からの要望を受け、今回は初日を「撮影編」、2日目を「プリント編」として分け、いずれかの参加でもOKとした。

初日は6階研修室の広い空間をスタジオに見立て、草薙氏から撮影時の画角や絞り、ライティングなどの効果について講話を受けた後、6体の彫刻作品からいずれかを選んで撮影を行った。撮り方を変えて何枚か撮影した後、ベストな1枚を選んでデータで提出し、最後はスクリーンに投影しながら作品の講評をしていた。

2日目は2階の写真室へ場所を変えてのプリント編である。参加者が各自で準備した写真データ（初日の参加者は彫刻を撮影したデータ）からデジタルネガを作成し、暗室で印画紙にプリントした。現像液や停止液を使った昔ながらのプリント方法はほとんどの参加者にとって初の経験であり、プリンターで出力する写真とは一味違うアナログならではの深い黒の階調に驚いた人も多かったようだ。完成した作品は各自でマットに入れて額装し、後日ふれんどりーギャラリーで開催中の草薙氏の写真展に並べて展示した。今回の写真教室は、専門的な道具や手順を体験したのはもちろん、参加者同士で協力し合いながら作品を作り出すという点でも非常に良い機会になったと思われる。



### III. 日本画教室—好きな植物を描こう— 9/10・11(全2日)

昨年度に続き、日本画家の大関智子氏を講師に迎え、今回は植物を題材とする教室を開催した。初めてで使い慣れない日本画の岩絵の具に四苦八苦する姿や、2日間に渡る制作では参加者による進行に違いも見られたが、制作に集中する場面と疲れた時には周りの参加者と楽しげに話をする場面も見られるなど、講師の適切な指導と人柄により、教室は終始良い雰囲気が進み、最後は皆満足行く作品に仕上げることができたようである。参加者からは次年度の開催も強く望む声上がるなど、好評のうちに終わることができた教室となった。



#### IV. 版画教室 10/22・23(各1日)

版画家の伊藤由美子氏に講師を依頼し、版画教室「ドライポイントで銅版画に挑戦！」を開催した。銅版画やドライポイントの技法は初めてという参加者が多かった。各版画の仕組みについて解説していただいたり、ニードルやプレス機などの道具の使い方について実演していただいたりと、伊藤先生には丁寧に教えていただいた。参加者からは「1回で深く彫らなくても、ニードルを何度か往復させることで力強い線に仕上がることが分かった」、「同じ版でもインクの加減の仕方で違った印象の作品になることが分かった」など、大変満足度の高いお声をいただいた。



### みんなの教室

#### I. 木の工作 つくろう！ぶんぼうぐアニマルズ！2 7/24

木の板材や棒などを使って、テープカッターや定規、鉛筆削りといった文房具の機能を備えたオブジェを作る教室である。

タイトルにもある通り、モチーフは前回同様に身近な動物や昆虫などの生き物とした。生き物の姿からイメージした形を単純化しつつ、いずれかの文房具の機能を盛り込みながら作品を制作してゆく。前回の反省を踏まえ、テープカッターのリールや刃といったアレンジの必要がほぼない部分を事前にユニット化し準備しておいたので、工程に余裕が生まれ制作に集中できた。使う樹種や色を検討したり、足や羽根などの大きさや厚みを調整したりと、親子で相談し試行錯誤を重ねながら作品を作っていた。組み立て後にはヤスリがけしてワックスを塗り完成となる。夏休みの工作のために参加した親子にとっても、本教室での制作体験はまたとない交流の機会になったのではないだろうか。



#### II. 新年に願いを 12/4

2022年度冬の教室は「絵馬」か「羽子板」のどちらかを選ぶ内容とした。結果はいずれも羽子板希望だった。羽子板はお持ち帰りのあと実際に遊んでいただくことを考え、耐水性であるアクリル絵の具を使用した。また、制作時間を半日にしていることから、効率よく乾燥させられるよう、テーブルごとにドライヤーを設置した。

事前のお知らせに原寸大の下描き用紙を添付し、あらかじめデザインを考えてきてもらったことで、スムーズに作業に入ることができた。親子で協力し、新年の干支「ウサギ」を入れたかわいい羽子板を完成させることができた。



## きつずあと

### I. おさかなすいぞくかん 8/7

未就学児を対象とし、材料や人と関わりながら素材の面白さや行為の楽しさを感じ取ってもらう教室で、これらの体験を通して、美術を支える力である諸感覚を養うことを目的とする。内容は、海の生き物の塗り絵に自由に彩色してハサミで切り抜き、机大の青色の画用紙に貼り付け、自分だけの水族館の水槽を作ってもらった。

塗り絵への着色はパステル、色鉛筆を使い、自由に彩色してもらったスタイルで行った。用意した図鑑や写真を参照して塗る児童もいれば、既存の生き物の色彩に拘らず自身の発想を元にしたカラフルな色を塗り分ける児童や、わざと白い部分を残す児童など、非常に個性が出ていて面白かった。色の組み合わせを考えることで色彩感覚や想像力が養えたと思う。



### II. ねんどランドであそぼう 9/4

「おさかな水族館」と同じく未就学児童を対象とし、素材の感触を全身で感じ取ってもらう教室を行った。

内容は土粘土の感触を楽しみ自由な創作を行う活動である。参加者は、まずバットに入れた粉粘土に触れて感触を確認し、そこに順次、水と粉粘土を加えていき、水気の多い泥状から、可塑性のある土粘土の状態へ変化していく過程を体験してもらった。土粘土になってからは、造形を楽しんでもらい、個性的な形の作品を作る児童や手形や足形をとる参加者もあり、自由に楽しんでいる様子が見られた。これまでは、参加者が一緒に活動するスタイルであったが、コロナ禍ということもあり、参加者単位のグループで作業することにした。



## ● ミュージウムコンサート

### I. 「近藤美穂子ピアノコンサート 奏 ～東西の調べ～」

日 時 2022年9月25日(日)  
1回目… 11時00分～ 11時40分  
2回目… 13時30分～ 14時10分  
場 所 秋田県立近代美術館5階中央ホール  
出 演 近藤美穂子  
観覧者数 129人

#### プログラム

1. J.Sバッハ フランス組曲第6番ホ長調 ジーグ
2. ドビュッシー ベルガマスク組曲より3. 月の光
3. ドビュッシー 映像第2集より3. 金色の魚
4. 武満徹 ピアノのためのロマンス
5. 成田為三 「浜辺の歌」変奏曲



## ● 美術館講座・美術講演

美術の鑑賞と理解を深めるため、当館特任館長が美術講座を8回実施した。  
詳細は次のとおりである。

### ◇美術館講座「特任館長講座」

#### 《江戸時代の美術と文化Ⅰ 一豪放から瀟洒へー》

長い平和を謳歌した江戸時代、豊かな芸術・文化が花開いた。上層階級から庶民まで、三都（江戸・大坂・京都）から地方まで、その階層的・地域的広がりには世界に類を見ない魅力となっている。本講座では、そのような江戸時代における美術の文化について多くの作品画像を交えながら解説した。

講師：仲町啓子（秋田県立近代美術特任館長・実践女子大学文学部教授）

会場：秋田県立近代美術館6階研修室

全8回、延べ受講者数216名

- |              |                                       |
|--------------|---------------------------------------|
| ① 5月 7日(土)   | 豪放から華麗へー海北友松・桂離宮                      |
| ② 6月 11日(土)  | 瀟洒な装飾美ー狩野探幽・狩野山雪                      |
| ③ 7月 16日(土)  | 古浄瑠璃と見立ー岩佐又兵衛・菱川師宣<br>付・サントリー美術館の名品より |
| ④ 8月 6日(土)   | 明清文化の請来ー黄檗宗と文人趣味                      |
| ⑤ 9月 3日(土)   | 南画の大成ー池大雅                             |
| ⑥ 10月 8日(土)  | 江戸の洋風画ー秋田蘭画・平賀源内・司馬江漢                 |
| ⑦ 11月 12日(土) | 江戸っ子の誕生ー鈴木春信・勝川春章・鳥居清長                |
| ⑧ 12月 10日(土) | 京のはんなりー円山応挙・呉春                        |

秋田県立近代美術館  
2022年度  
**美術館講座のご案内**

長い平和を謳歌した江戸時代、豊かな芸術・文化が花開きました。上層階級から庶民まで、三都（江戸・大坂・京都）から地方まで、その階層的・地域的広がりには世界に類を見ない魅力となっています。本講座では、そのような江戸時代における美術の文化について触れてみます。  
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

講座名：特任館長講座  
《江戸時代の美術と文化Ⅰ 一豪放から瀟洒(しょうしゃ)へー》

講師：仲町啓子（在任中）  
（秋田県立近代美術特任館長・実践女子大学文学部教授）

対象：学生、一般

場所：秋田県立近代美術館6階研修室

時間：午後1時30分～午後3時

受講料：無料

申し込み：不要（各回会場にて受付）

仲町啓子特任館長

題目・内容

① 5月 7日(土)	豪放から華麗へー海北友松・桂離宮
② 6月 11日(土)	瀟洒な装飾美ー狩野探幽・狩野山雪
③ 7月 16日(土)	古浄瑠璃と見立ー岩佐又兵衛・菱川師宣 付・サントリー美術館の名品より
④ 8月 6日(土)	明清文化の請来ー黄檗宗と文人趣味
⑤ 9月 3日(土)	南画の大成ー池大雅
⑥ 10月 8日(土)	江戸の洋風画ー秋田蘭画・平賀源内・司馬江漢
⑦ 11月 12日(土)	江戸っ子の誕生ー鈴木春信・勝川春章・鳥居清長
⑧ 12月 10日(土)	京のはんなりー円山応挙・呉春

※新型コロナウイルス感染症のため、講座の中止、変更の可能性がります。詳しくは当館ホームページでご確認ください。電話等でお問合せ下さい。

◆お問合せ先  
秋田県立近代美術館（秋田県立近代美術館）  
〒012-0054 秋田県平田市志保字屋分 62-46  
Tel:0182-33-8855 Fax:0182-33-8858  
E-mail:akita@mail.mnac.jp

## ● 出前美術展 能代エナジウムパーク 「中村征夫写真展 ～海のみんなの顔!かお!カオ!～」

会 期：2022(令和4)年8月17日(水)～8月28日(日)【11日間】  
 ※休館日：8月22日(月)  
 主 催：東北電力(株)能代エナジウムパーク、秋田県立近代美術館  
 会 場：能代エナジウムパーク カルチャーホール  
 担 当：藤井正輝、木村雅洋  
 入場者数：1,226名

県内遠方地域の方にも気軽に当館収蔵品をお楽しみいただきたいと  
 願いスタートした本展は今年で10回目を迎えた。今回は秋田県昭和町  
 (現・潟上市)出身の水中写真家・中村征夫(いくお)氏の写真展を  
 開催した。今回は海の生物たちの顔に注目し、特に表情が豊かに感じ  
 られるものや、顔のアップをとらえた作品など50点を展示した。



No	作品名	技法・形状	寸法(cm)
1	ピカチュウみたい ※ウデフリツノザヤウミウシ(横)	写真パネル	60.0×90.0
2	サンゴの赤ちゃん	写真パネル	60.0×42.0
3	クルマダイの幼魚	写真パネル	60.0×42.0
4	ヒトミハタ	写真パネル	69.0×46.0
5	コブダイ	写真パネル	69.0×46.0
6	クマノミ誕生間近	写真パネル	42.0×63.0
7	クマノミの幼魚(横)	写真パネル	90.0×60.0
8	キンメモドキ	写真パネル	42.0×63.0
9	クラゲ	写真パネル	60.0×90.0
10	アンコウ	写真パネル	90.0×60.0
11	ダンゴオコゼ(縦)	写真パネル	90.0×60.0
12	ハコフグ	写真パネル	42.0×63.0
13	コクチフサカサゴ	写真パネル	90.0×60.0
14	ミナミハコフグの幼魚	写真パネル	60.0×42.0
15	サメのアップ	写真パネル	66.0×100.0
16	ウツボ	写真パネル	42.0×63.0
17	クロシマゴチ	写真パネル	90.0×60.0
18	シモフリシマハゼ	写真パネル	42.0×63.0
19	空き缶から顔を出す魚(縦横不明)	写真パネル	90.0×60.0
20	ヤリイカの誕生	写真パネル	42.0×63.0
21	コブシメの幼魚	写真パネル	42.0×63.0
22	コウイカ	写真パネル	52.0×78.0
23	マダコ	写真パネル	52.0×78.0
24	モンハナシャコ	写真パネル	63.0×42.0
25	エビの仲間	写真パネル	78.0×52.0
26	ガザミ 2匹	写真パネル	78.0×52.0
27	タラバガニ	写真パネル	42.0×63.0
28	マゴチ	写真パネル	60.0×90.0
29	ヒメホウキムシ	写真パネル	72.0×51.0
30	オニカサゴ	写真パネル	60.0×90.0

- 31 ミナミハコフグ (アルポリック)
- 32 ウミスズメ
- 33 ゴンズイの幼魚
- 34 スカシテンジクダイの幼魚
- 35 カクレクマノミ
- 36 カクレクマノミ
- 37 カクレクマノミ
- 38 カクレクマノミ
- 39 カクレクマノミ
- 40 カクレクマノミ
- 41 アヤコショウダイ (数匹)
- 42 カスリハタ (顔のアップ)
- 43 コケギンボの一種
- 44 アオウミガメ
- 45 イレズミアマダイ
- 46 フリソデエビ (横)
- 47 バイカナマコ
- 48 ヨコスジカジカ (縦)
- 49 ヒトスジギンボ
- 50 ミナミバンドウイル

- 写真パネル 60.0×80.0
- 写真パネル 54.0×40.0
- 写真パネル 60.0×42.0
- 写真パネル 90.0×60.0
- 写真パネル 45.0×36.5
- 写真パネル 45.0×36.5
- 写真パネル 36.5×43.0
- 写真パネル 43.0×36.5
- 写真パネル 43.0×36.5
- 写真パネル 43.0×36.5
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 51.0×61.0
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 51.0×61.0
- 写真パネル 50.0×66.0
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 61.0×51.0
- 写真パネル 51.0×61.0



● ネットワーク推進事業 (共催：秋田県立近代美術館・秋田県立図書館)

『アートにみるイキモノたち』

会 期：2022(令和4)年12月15日(木)～2023(令和5)年1月24日(火)【30日間】  
会期中の休館日：毎週水曜日、2022年12月28日(水)～2023年1月4日(水)

主 催：秋田県立近代美術館、秋田県立図書館

会 場：秋田県立図書館 2F特別展示室

展示作品：平福穂庵《藤花游鯉》、結城素明《不老富貴》、佐藤義雄《鷹匠》  
大野源二郎《粉碎作業》、千葉禎介《少年》、河津五郎《山羊》  
ほか 計27点

担 当：鈴木秀一、北島珠水

入場者数：4,456人



作品リスト

No	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	平福百穂	蘆花翡翠	1929(昭和4)	紙本墨画淡彩 軸装	27.7×30.0
2	平福穂庵	藤花游鯉	1890(明治23)	紙本墨画淡彩 軸装	133.4×52.5
3	辻 九臯	高砂	1900(明治33)	絹本着色 軸装(対幅)	各127.0×56.0
4	結城素明	不老富貴	—	絹本着色 軸装(対幅)	各127.0×41.8
5	三森山静	蘆に小禽	—	絹本着色 軸装	125.0×48.0
6	寺澤孝太郎	七面鳥	—	紙本着色	66.0×62.0
7	佐々木裕久	鳥思考一叫	1985(昭和60)	紙本着色 額装	90.5×116.6
8	梅津祐司	Earth 1	1980(昭和55)	リトグラフ、紙	131.1×36.3
9	佐藤義雄	鷹匠	1961(昭和36)	油彩、キャンバス	162.1×112.1
10	佐藤義雄	鷹と少年	1971(昭和46)	油彩、キャンバス	100.0×72.7
11	中村征夫	ホテイウオ	—	写真パネル	42.0×63.0
12	中村征夫	シロワニ	—	写真パネル	42.0×63.0
13	中村征夫	イシガニ	—	写真パネル	78.0×52.0
14	中村征夫	マダラトビエイ	—	写真パネル	90.0×60.0
15	中村征夫	コブシメ	—	写真パネル	63.0×42.0
16	中村征夫	オオウミヒドラ	—	写真パネル	58.0×45.0
17	河津五郎	蛙(かえる)	1949(昭和24)頃	木彫 着色	3.7×7.3×6.4
18	河津五郎	蜥蜴(とかげ)	1946(昭和21)頃	木彫 着色	3.7×24.4×3.3
19	河津五郎	鼠(ねずみ)	1946(昭和21)頃	木彫	4.9×16.5×6.5
20	河津五郎	山羊(やぎ)	—	木彫・着色	21.5×25.5×10.5
21	大野源二郎	粉碎作業	1953(昭和28)	ゼラチン・シルバープリント	13.5×20.0
22	大野源二郎	田搔きの夫婦	1952(昭和27)	ゼラチン・シルバープリント	13.5×20.0
23	大野源二郎	牛耕	1954(昭和29)	ゼラチン・シルバープリント	13.5×20.0
24	大野源二郎	むしろ織り	1956(昭和31)	ゼラチン・シルバープリント	13.5×20.0
25	千葉禎介	少年	1950年代	ゼラチン・シルバープリント	30.2×22.2
26	千葉禎介	吹雪く日の馬	1952(昭和27)	ゼラチン・シルバープリント	31.0×25.5
27	小泉 勝爾	鳥類写生図譜	1927～1938		44.0×32.0
	土岡 泉		(昭和2～13)		

監修：結城素明

関連記事：【新聞・雑誌】秋田魁新報

1/12

## ● ふれんどりーギャラリー

### 「齋藤國男 漆芸展」

60年にわたり、漆と付き合い、語り合ってきた漆芸家・齋藤國男氏の作品を展示。

会 期：2022(令和4)年4月30日(土)～5月29日(日) 【30日間】  
担 当：保泉充

#### 作品リスト

No	作品名	No	作品名
1	器 堆漆流れ	11	喰籠宙
2	器 陽	12	花器
3	器 堆漆	13	不変型器
4	不変型鉢	14	器
5	器 堆漆	15	各種塗技法手板
6	器 流れ	16	大皿 渦
7	飾り箱 連峰	17	飾り皿 流
8	丸盆 華	18	文庫 百合
9	飾り皿 流れ	19	不変皿 紅葉
10	飾り皿 交差	20	花器 草葉 器 深光



### 「草薙裕写真展 arkhē ～水と太陽～」

写真教室「ライティング撮影・現像&プリントに挑戦！」の講師・草薙裕氏の作品を展示

会 期：2022(令和4)年6月21日(火)～7月24日(日) 【34日間】  
担 当：木村雅洋

※タイトルの「arkhē(アルケー)」とは、古代ギリシャの哲学で「根源」の意である。地球上のあらゆる生命を生み出してきた水と太陽。無色透明で形が定まらない水は、波、泡、渦、飛沫等、様々な姿を見せてくれる。天候、時間等によって変化するその一瞬を、写真でしか視ることのできない肉眼を超えた世界として表現した、草薙裕氏の作品を展示した。

併せて写真教室参加者の「デジタルネガ」を用いて印画紙にプリントした作品も展示。

#### 作品リスト

作品名	点数	寸法(cm)
「arkhē」 2007年制作	11点	各 84.1 × 56.3
	4点	各168.2 × 56.8





## 「大関智子 New Wild」

美術館教室「日本画教室－好きな植物を描こう！」の講師・大関智子氏の作品を展示

会 期：2022(令和4)年9月4日(日)～10月5日(日) 【32日間】

担 当：保泉充、北島珠水

### 作品リスト

No	作品名	技法材質	寸法(cm)
1	「New Wild」	パネル、雲肌麻紙、岩絵具、膠 (2022年制作 3点組)	各89.4 × 130.3
2	「営みの標本」	パネル、雲肌麻紙、岩絵具、膠 (2018年制作 5点組)	各24.2 × 33.3



## 「伊藤由美子 版画展」

美術館教室「版画教室」の講師・伊藤由美子氏の作品を展示

会 期：2022(令和4)年10月8日(土)～11月13日(日) 【37日間】

担 当：藤井正輝、北島珠水

### 作品リスト

No	作品名	技法材質	寸法(cm)	制作年
1	ただよう	水性木版	60.6×91.5	2016
2	pale moon	水性木版	45.0×90.0	2017
3	耳をすます	水性木版	60.0×45.0	2019
4	手	水性木版	18.0×18.0	2020
5	みつめる	水性木版	60.0×45.0	2020
6	shadow	水性木版	15.0×15.0	2021
7	portrait 1	水性木版、ドライポイント	15.0×15.0	2020
8	portrait 4	水性木版、ドライポイント	15.0×15.0	2020
9	奏でる	ドライポイント	24.0×18.0	2021
10	初夏	ドライポイント	25.0×25.0	2022
11	暮らし	ドライポイント	25.0×25.0	2022
12	女性像	ドライポイント	20.0×15.0	2022



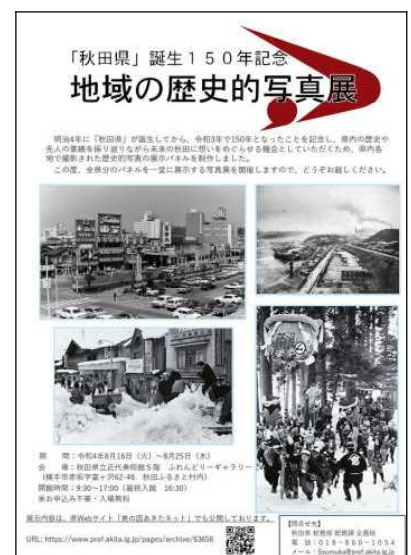
## 「秋田県」誕生150年記念 地域の歴史的写真展

令和3年の秋田県誕生150年を記念し、県内の歴史や先人の業績を振り返りながら未来の秋田に想いをめぐらせる機会とするため、県内で撮影された歴史的写真の展示パネルが制作され、巡回展が開催された。

会 期：2022(令和4)年8月16日(火)～8月25日(日) 【10日間】

担 当：秋田県総務部企画班

パネル数：30枚 (A1サイズパネル、アルミフレーム入り)



## ● 美術館のセカンドスクールの利用

### ◇ 概況

	セカンドスクールの利用（教育課程内）										総利用校数	総利用人数		
	幼・保育園		小学校		中学校		特別支援学校		高等学校				その他	
	園数	(人数)	校数	(人数)	校数	(人数)	校数	(人数)	校数	(人数)			団体数	(人数)
4月	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0
5月	0	(0)	0	(0)	1	(46)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	46
6月	1	(22)	7	(208)	1	(39)	0	(0)	1	(15)	0	(0)	10	284
7月	0	(0)	2	(65)	3	(12)	2	(3)	0	(35)	1	(8)	8	115
8月	0	(0)	0	(0)	1	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	2
9月	0	(0)	1	(10)	0	(0)	0	(0)	1	(9)	0	(0)	2	19
10月	0	(0)	3	(84)	1	(61)	1	(8)	1	(11)	0	(0)	6	164
11月	0	(0)	4	(107)	0	(0)	0	(0)	1	(31)	0	(0)	5	138
12月	0	(0)	2	(34)	0	(0)	0	(0)	1	(13)	0	(0)	3	47
1月	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0
2月	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(13)	0	(0)	1	13
3月	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0
小計	1園	22人	19校	500人	7校	160人	3校	11人	7校	127人	1団体	8人		
合計	37校 828人										37校・団体	828人		

※参考

令和3年度	83校・団体	2,670人
令和2年度	52校・団体	1,726人
令和元年度	98校・団体	2,904人
平成30年度	128校・団体	4,005人

### ◇ 令和4年度セカンドスクールの利用校一覧

認定こども園こひつじ	太田南小学校	雄勝小学校	横手南中学校	栗田支援学校中等部
船川第一小学校	太田北小学校	西馬音内小学校	横手北中学校	大曲支援学校
脇本第一小学校	白岩小学校	三輪小学校	増田中学校	せんぼく校中学部
下浜小学校	浅舞小学校	羽後明成小学校	横手高等学校	横手支援学校高等部
大川西根小学校	雄物川小学校	高瀬小学校	横手城南高等学校	横手支援学校中学部
横堀小学校	大雄小学校	能代南中学校	増田高等学校	横手支援学校小学部
太田東小学校	山田小学校	中仙中学校	栗田支援学校高等部	稲川支援学校高等部

※教育課程外での利用（部活動）、市町村事業

- 部活動 横手北中学校美術部
- 市町村事業 横手市夏休み子ども教室（横手南教室、境町教室、金沢教室）
- 短大等 由利本荘医師会立由利本荘看護学校

### ◇ 利用の位置付け（教科等）

- ・図画工作科、美術科、生活科、社会科、芸術等の各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

### ◇ 内容

■セカンドスクールの対応について

- ・感染予防の観点から、制作体験の受け入れは見合わせとし、展示鑑賞及び彫刻探検のみを受け入れた。一度に案内する人数を20名程度に制限して実施し、展示室で作品の前に集まったの対話型鑑賞は実施しなかった。

### ◇ キンピ・アートカード 貸出数

- ・小学校2校（横手市立大雄小学校6セット、大仙市横堀小学校10セット） 計2団体（16セット）

## ● 博物館実習

博物館法に基づき、学芸員の資格取得を目指す学生を受け入れる博物館実習を行った。昨年度に続き新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況だったため、人混み回避、マスクの着用、手洗い・検温の実施などの感染予防対策を十分に講じての実施となった。一般来場者を対象としたギャラリートーク実習は、ギャラリーを実習生と当館職員数名程度とし、密にならないよう間隔をとった上で行った。

( 実習生の所属大学と人数： 秋田公立美術大学1名、 東北生活文化大1名 )

### 2022(令和4)年度博物館実習計画

月日	時 間	実 習 内 容	場 所
8 月 30 日	10:00～10:30	オリエンテーション (実習のねらい、日程説明)	図書室
	10:30～11:00	秋田県立近代美術館の概要	図書室
	11:00～12:00	施設・設備の見学①	館内
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～15:00	施設・設備の見学②、展示室見学	館内
	15:00～16:00	出前美術展 撤収作業見学	トラックヤード等
	16:00～17:00	実習記録まとめ	図書室
8 月 31 日	10:00～12:00	作品の収集・保存と保存環境①	展示室・収蔵庫
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～14:00	展示作業補助 (秋田蘭画展ラベル制作)	研究室
	14:00～16:00	ギャラリートーク準備① (作家・作品調査)	図書室
	16:00～17:00	実習記録まとめ	図書室
9 月 1 日	10:00～12:00	展示作業補助 (秋田蘭画展ラベル制作)	研究室
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～15:30	受付・監視業務補助① (カウンター受付、展示室内監視等)	館内各所
	15:00～16:00	ギャラリートーク準備② (作家・作品調査)	図書室等
	16:00～17:00	実習記録まとめ	図書室
9 月 2 日	10:00～11:00	ギャラリートーク実演	6階展示室
	11:00～12:00	作品の取り扱いについて	図書室
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～14:30	受付・監視業務補助② (カウンター受付、展示室内監視等)	館内各所
	14:30～16:00	広報活動【SNSを活用した美術館PR等】	図書室・研究室
	16:00～17:00	実習記録まとめ	図書室
9 月 3 日	10:00～12:00	特任館長講座、きつずあーと「ねんどランドであそぼう」準備	6階研修室・風の回廊
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～16:00	特任館長講座補助	6階研修室
	16:00～17:00	実習記録まとめ	図書室
9 月 4 日	10:00～12:00	きつずあーと「ねんどランドであそぼう」補助	風の回廊
	12:00～13:00	昼休み	
	13:00～15:00	施設・設備の問題点の洗い出し	館内全域
	15:00～17:00	アンケート記入・実習記録のまとめ	図書室

## ●中学生職場体験、高校生インターンシップ、中堅教諭等資質向上研修の受け入れ

### ◇ 中学生職場体験

#### 1 目的

- (1) 職場体験を通して、仕事や職種に関する認識の幅を広げる機会とする。
- (2) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につける一助とする。
- (3) どのような職業においても、学ぶことやコミュニケーションが重要であることを実感し、今の中学校生活を大切にしようとする姿勢を身につける機会とする。

#### 2 主な体験内容

受付・監視業務補助、作品解説体験、彫刻清掃

#### 3 期日と実習生

- (1) 令和4年7月27日(水)～28日(木) 2日間  
横手南中学校 2年生(5名)
- (2) 令和4年8月4日(木) 1日間  
横手北中学校 2年生(2名)

### ◇ 高校生インターンシップ

#### 1 目的

- (1) 美術館の業務体験を通して職業への関心を高めるとともに、自己の適性の把握と進路意識の高揚を高める機会とする。
- (2) 将来の生き方に関わる職業観・勤労観を形成する一助とする。

#### 2 主な実習内容

教育普及事業準備・活動、広報業務、受付・監視業務、講義受講等

#### 3 期日と実習生

- (1) 令和4年7月22日(金)～7月24日(日) 3日間
- (2) 秋田県立横手城南高等学校 (2名)  
秋田県立横手高等学校(定時制課程)(1名)

※実習生在籍校に新型コロナウイルス感染者が出たため1日目の午前の日程のみで終了

### ◇ 中堅教諭等資質向上研修

#### 1 目的

美術館での異職種体験を通じて視野を広げ、教職員としての心構えを再認識する一助とする。

#### 2 期日と研修者

令和4年8月5日(金)～7日(日) 3日間  
秋田県立大曲支援学校せんぼく校(1名)  
秋田県立大曲支援学校(1名)  
湯沢市立雄勝中学校(1名)

#### 3 主な研修内容

教育普及事業(きつずあーと)準備・活動、受付・監視業務、講義受講等

## ● 美術館ボランティア AMC (アムック: Akita Museum Cooperator)

秋田県立近代美術館におけるボランティア活動は、生涯学習振興の考えに基づいて導入された。美術館でのボランティア活動を通して、会員が美術に対する愛好心と知識を深めるとともに、県民と美術館の架け橋として主体的に活動することを目指している。

活動は、1ヶ月に1日(又は半日を2回)程度の活動日を各個人が定め、1年間継続することを原則としている。活動内容は、展示室活動、案内活動、事務補助活動、配布活動、野外彫刻清掃活動、イベント活動、自己研修などの他、会員への毎月の会報作成や、交流会、他美術館等における研修なども行っている。新会員については、事前に館職員とAMC役員によるオリエンテーションを行うなどして活動をサポートしている。



1 会員数 51名 (2023年3月1日現在)

2 活動内容

### ① 展示室活動・案内活動

- i 館内案内、誘導(館内各施設、順路ほか)・身体障害者、高齢者、子供対応・団体の整理、誘導
- ii 美術館での鑑賞マナーの普及活動
- iii 資料配付(リーフレット、作品解説チラシほか)
- iv 質問対応(展示資料、美術館の概要、観光、道路、交通機関など)

### ② 事務補助活動

- i 印刷物発送準備作業(ポスター、チラシ、美術館ニュースほか)

### ③ 自己研修

- i ハイビジョン鑑賞(番組、データベース)
- ii 館蔵作品の調査研究等(図書資料室)
- iii 鑑賞学習会(ギャラリートーク、ワークショップ等への参加)

### ④ その他の活動

- i ふるさと村内でのPR活動(展覧会・付帯事業)
- ii ミュージアムコンサート等の手伝い
- iii 講演会準備の手伝い
- iv 野外彫刻の清掃
- v 印刷物(AMC通信など)の作成・発行

### ◆ おもな関連行事

- ① 役員会(13回)
- ② 講演会・美術館講座・コンサートへの参加
- ③ 交流会(7月3日 会員8名参加)
- ④ 研修旅行(10月16日 わらび座観劇「ゴホン!といえば」 会員19名参加)
- ⑤ 新会員オリエンテーション(随時)
- ⑥ 総会(2023年3月12日)

# 収集事業

## 収集方針

- ①秋田蘭画・初期洋風画作品や資料
- ②近代以降の本県出身及びゆかりの作家の作品や資料
- ③日本の美術思潮を学ぶことのできる作品や資料
- ④当館の収集作品としてふさわしい内外の作品や資料

## ● 美術品収集

### 美術品等収集状況(令和4年度末まで)

種別	県美術品取得基金	優秀美術作品収集事業	寄贈	他施設から所管換	合計
秋田蘭画	6	0	1	5	12
東洋画	0	0	1	1	2
日本画	224	31	258	184	697
洋画	51	147	216	79	493
版画	11	60	286	67	424
水彩画	0	1	11	0	12
彫刻	121	12	77	6	216
工芸	29	0	11	1	41
デザイン	0	0	16	6	22
書	13	7	240	2	262
写真	3	0	230	0	233
素描・下絵等	20	0	215	11	246
国内その他資料	5	0	138	5	148
外国版画	0	0	0	2	2
外国彫刻	7	0	2	1	10
外国映像資料等	1	0	2	0	3
合計	491	258	1,704	370	2,823

### 2022(令和4)年度収集

種別	県美術品取得基金	優秀美術作品収集事業	寄贈	他施設から所管換	合計
日本画			7		7
洋画			17		17
彫刻			1		1
工芸			1		1
素描・下絵等			3		3
国内その他資料			5		5
外国彫刻			2		2
合計			36		36

### 購入による収集

2022(令和4)年度はなし

### 寄贈による収集

No	種別	作者名	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)
1	日本画	鎌田敏子	彩を謳う	2004	油彩・板 F130号	162.5×194.0
2	彫刻	峯田敏郎	足をのぼすトルソ	1980	素材・FRP	85.0×85.0×35.0
3	外国彫刻	黄土水	猿(仮称)	制作年不詳	木	22.6×18.8
4	外国彫刻	黄土水	犬(仮称)	制作年不詳	木	40.2×39.0
5	日本画	若狭成業	禽語松聲図	制作年不詳	紙本墨画淡彩 軸装	140.5×54.5
6	日本画	若狭成業	夕陽帰牧図	制作年不詳	紙本墨画淡彩 軸装	138.0×33.5
7	日本画	若狭成業	十六羅漢図	制作年不詳	紙本墨画淡彩 軸装	137.0×33.0
8	工芸	平福百穂	曲げわっぱ火鉢	制作年不詳	金泥画 若松、老松	径30.0×高21.8
9	資料	平福穂庵 画	太平山三吉大神 版木	制作年不詳	木	62.0×39.1
10	資料	平福百穂ほか	秋田画人の書簡類			
11	資料		福田豊四郎関係資料			
12	日本画	小野崎大凌	男鹿半島之図	1927	額装3面	38.0×169.0

13	資料	小泉勝爾ほか	鳥類写生図譜	1927～1938		44.0×32.0
14	日本画	堀川達三郎	ほとり	1995	紙本着色額装	62.0×39.1
15	洋画	小西正太郎	風景	制作年不詳	油彩・板	15.2×22.5
16	素描	小西正太郎	裸婦（デッサン）	1922	コンテ・紙	48.1×31.3
17	洋画	小西正太郎	マドモアゼルシモン	制作年不詳	油彩・板	45.8×37.3
18	洋画	小西正太郎	D嬢	1925	油彩・カルトン	45.9×37.8
19	洋画	小西正太郎	婦人像（白い襟）	1925	油彩・カルトン	53.0×38.5
20	洋画	小西正太郎	湖辺	1924	油彩・キャンパスボード	46.0×37.9
21	洋画	小西正太郎	エジプト模様をバックにした静物	1925	油彩・カルトン	73.0×68.0
22	洋画	小西正太郎	婦人像	制作年不詳	パステル・紙	47.6×31.3
23	洋画	小西正太郎	婦人像	制作年不詳	パステル・紙	47.9×31.9
24	洋画	小西正太郎	黒人	1925	油彩・板	34.9×27.0
25	洋画	小西正太郎	婦人像（ピンクの上着）	1924	油彩・画布	80.4×65.3
26	洋画	小西正太郎	婦人像（ピンクの下着）	1925	油彩・キャンパスボード	53.0×38.0
27	素描	柴田安子	スケッチ「風景（仮称）」	1923	水彩・紙	22.5×31.2
28	素描	柴田安子	スケッチ「椿（仮称）」	制作年不詳	紙本墨画淡彩	32.0×32.7
29	資料	北島震一	冊子コピー『蘭画画家柴田安子』『卒寿群話』	1995		B5判
30	日本画	福田豊四郎	冬の夜の家族たち	1962	紙本着色額装	90.8×65.2
31	洋画	佐々木良三	限定海域のものたち	1983	油彩・キャンパス	162.0×162.0
32	洋画	佐々木良三	台上のビニールハウス	1986	油彩・キャンパス	194.0×162.0
33	洋画	佐々木良三	塗り込まれる顔	1990	油彩・キャンパス	194.0×162.0
34	洋画	佐々木良三	北部日本海の異変	1991	油彩・キャンパス	194.0×162.0
35	洋画	佐々木良三	伸びた顔	2001	ミクストメディア・キャンパス	200.0×170.0
36	洋画	佐々木良三	接地 I	2007	ミクストメディア・樹脂パネル	192.0×162.0

## ● 図書資料

分類	令和4年度新収図書	分類別合計	
一般図書	美術総記	36	1,947
	日本美術	24	2,999
	西洋美術	2	696
	東洋、その他の美術	0	154
	秋田資料	20	679
	関係諸学	2	989
所蔵品図録、研究報告、年報	250	6,633	
展覧会図録	245	9,901	
美術雑誌他	114	7,667	
計	693	31,665	

## 美術品の貸出

No	貸出先	展覧会名	貸出期間	作品名
1	平野政吉美術財団	長期貸出	2019/05/16-	藤田嗣治「裸婦立像」など24点
2	副知事室		2022/4/1 -2023/3/31	中村征夫「トビウオの飛翔」など12点（年4回入替）
3	枕崎市文化資料センター 南溟館	中村征夫写真展「海への旅」	2022/7/6 -2022/9/8	中村征夫「海への旅」約100点
4	東京ステーションギャラリー	展覧会「鉄道と美術の150年展」	2022/9/18 -2023/1/30	大野源二郎「別れのプラットフォーム」他5点
5	仙北市立角館町平福記念 美術館	企画展「郷土画人がえがくいき ものたち」	2022/9/20 -2022/11/13	平福百穂「獣戯図」他6点

## 美術品保存

### ● 美術品保存・修復

令和4年度はなし

### ● 重要文化財等指定

#### 国指定重要文化財

No.	指定年月日	名称	備考
1619	昭和43. 4. 25	絹本著色不忍池図（小田野直武筆）1面	
1971	平成11. 6. 7	絹本著色唐太宗花鳥図（小田野直武筆）3幅	

#### 秋田県指定有形文化財

No.	指定年月日	名称	備考
絵 9	昭和32. 4. 4	絹本著色芍薬花籠図（小田野直武筆）1幅	
絵17	昭和53. 2. 14	小田野直武筆写生帖 1冊	
絵19	昭和57. 1. 12	鶴之図（沈南蘋筆）2幅対	
絵21	平成16. 3. 19	紙本着色ファン・ロイエン筆 花鳥図模写 1幅	
絵22	平成17. 3. 22	平福穂庵筆 乳虎 1幅	
絵23	平成20. 3. 21	寺崎廣業筆 高山清秋 6曲1双	
絵24	平成20. 3. 21	平福百穂筆 春山 1幅	
絵25	平成23. 3. 22	小田野直武筆 富嶽図 1幅	
歴21	平成28. 3. 25	白雲筆 奥州街道並羽州街道風景図 1帙2帖	
絵33	令和 4. 3. 29	平福穂庵筆 緑蔭清談 1幅	

## 燻蒸

実施期日：2023(令和5)年1月19日(木)～1月24日(火) 【6日間】

燻蒸場所：地下1階一時保管庫、2階収蔵庫（2室） 総容積 1,498.9m<sup>3</sup>

実施業者：東化研株式会社

※ 燻蒸容積：2階収蔵庫（2室）	1,281.8m <sup>3</sup>
3階収蔵庫（3室）	2,091.0m <sup>3</sup>
5階展示室（4室）	4,596.0m <sup>3</sup>
6階展示室（3室）	2,890.8m <sup>3</sup>
地下1階一時保管庫	217.1m <sup>3</sup>

収蔵庫及び一時保管室に保管している美術品及び関係資料をカビ・害虫から守るため、令和4年度は燻蒸を東化研株式会社に委託し上記6日間にわたり、実施した。酸化エチレン（C<sub>2</sub>H<sub>4</sub>O）と代替フロン（HFC-134a）の混合剤（商品名エキヒュームS）を気化器によりガス化投薬し、内部濃度を基準有効濃度200g/m<sup>3</sup>の基準として、48時間密閉燻蒸を行った。ガス濃度測定は、ガスが均一化するまでは1時間毎に、ガスが均一化した後は2時間毎に行った。燻蒸期間中は、安全確保の措置を取る。ガス解放は強制ファン等を使用し、速やかに行った。供試虫、供試菌による燻蒸効果判定は(財)文化財虫害研究所で行い、2月に良好と認め、合格と判定した。



## 仲町啓子

講座 美術館講座「特任館長講座」《江戸時代の美術を文化 I - 豪放から瀟洒へ》 2022年5月～12月まで8回

## 木村雅洋

作品解説 秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る188」 佐々木裕久「地の華—凍結した夜—」、「鳥偲考—幻視」 2022年11月30日

秋田魁新報社 「郷」冬号 冬の一枚 佐々木裕久「地の華—凍結した夜—」 2022年Vol.152

実技講座 みんなの教室 「つくろう！ふんぼうアニマルズ！2」 2022年7月24日

講座 あきた県庁出前講座No.177 あきたの美術 ～所蔵作品に見る秋田蘭画から近代まで～  
秋田県立横手清陵学院高等学校 2022年10月14日

## 鈴木秀一

作品解説 秋田魁新報社 「郷」夏号 夏の一枚 舘岡栗山「竿灯」 2022年Vol.150

秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る169」 高橋清見「水無月の頃」、舘岡栗山「竿灯」 2022年7月20日

実技講座 きつずあーと「おさかなすいぞくかん」 2022年8月7日

きつずあーと「ねんどランドであそぼう」 2022年9月4日

## 藤井正輝

作品解説 秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る198」 横山津恵「湖の譚(デッサン含む)」 2023年2月15日

サキガケアドブレーション「marimari」 アート探訪「写生でつむぐ女性の美」 2023年3月3日

実技講座 みんなの教室「新年に願いをこめて(絵馬・羽子板)」 2022年12月4日

講座 あきた県庁出前講座 No.178 講座名 キンビアートカードを使った鑑賞活動 横手市立図書館 2022年11月6日

## 北島珠水

講座 あきた県庁出前講座 No.178 講座名 キンビアートカードを使った鑑賞活動 秋田県生涯学習センター 2022年10月1日

あきた県庁出前講座 No.178 講座名 キンビアートカードを使った鑑賞活動 運動学習支援教室ふれんず 2023年3月30日

## 秋田達也

作品解説 秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る171」 特別展「サントリー美術館名品展」 2022年8月3日

秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る180」 福田豊四郎「山の秋」 桜庭藤二郎「山河」 2022年10月5日

委員 国際浮世絵学会 理事・企画委員

## 鈴木 京

作品解説 秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る181」 小田野直武「不忍池図」他1点 2022年10月12日

秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る195」 金沢秀之助「熱国の春(壁画習作)」 2023年1月25日

秋田魁新報社 「郷」秋号 秋の一枚 小田野直武「富嶽図」 2022年Vol.151

## 小林紀子

作品解説 秋田魁新報社 すいよう学芸館「美を知る156」 堀川達三郎「暮彩」、寺崎廣業「瀟湘八景(瀟湘夜雨)」 2022年4月20日

秋田魁新報社 「郷」春号 春の一枚 平福百穂「春山」 2022年Vol.149

(小林は2022年4月1日付で異動となった)

◆2021年度 秋田県立近代美術館年報 2022年6月発行 PDF配布のみ

◆秋田県立近代美術館ニュース『ARK』No. 83 2022年9月30日発行 A3判三折

展覧会レポート： 日本画家 堀文子 百年の旅  
サントリー美術館名品展 ー佐竹本・三十六歌仙から円山応挙、エミール・ガレまで  
2022コレクション展第1期 描かれた気象  
2022コレクション展第2期 夏を見る  
出前美術展 中村征夫写真展～海の上のみんなの顔！かお！カオ！～  
2022年度上半期のふれんどりーギャラリー展示  
展覧会紹介： 秋田蘭画の世界 ー『解体新書』から《不忍池図》へー  
レポート： 上半期実施美術館教室・講座一覧  
インフォメーション： 2022年度下半期の事業

◆秋田県立近代美術館ニュース『ARK』No. 84 2023年3月30日発行 A3判三折

展覧会レポート： 秋田蘭画の世界 ー『解体新書』から《不忍池図》へー  
没後20年 佐々木裕久展 ー闇を研ぐ、想いが舞うー  
横山津恵デッサン展  
2022コレクション展 第3期 山粧いて山眠るー秋から冬の景色ー  
2022コレクション展 第4期 ウサギを探せ！ Where is my rabbit?  
2022年度ネットワーク事業 アートにみるイキモノたち  
2022年度下半期のふれんどりーギャラリー展示  
トピックス： セカンドスクールの利用一覧  
レポート： 下半期実施美術館教室・講座一覧  
インフォメーション： 2023年度上半期実施予定事業一覧

※ 秋田県立近代美術館ニュース『ARK(アーク)』

秋田県立近代美術館では、展覧会の概要やさまざまな美術館活動などの広報を目的とし、美術館ニュース「ARK」を年2回発行している。(平成20年度よりデザインを親しみやすいものに改変した)「ARK」とは、ラテン語で「箱」を意味する言葉で、『聖書』では、ノアが大洪水から逃れた箱船のことをさす。当館の外観が“空中に浮遊する巨大な箱船”に見えることから命名された。

◆2023年度行事案内リーフレット(年間スケジュール) 2023年3月発行 A4 2頁

# 入館状況

## 令和4年度 月別入館者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入館者数(人)	1,703	3,759	3,291	4,176	6,021	3,662	3,043	2,922	3,452	3,497	1,960	3,036	40,522

## 利用者数一覧表

事業別 区分	入館者	特別展入場者					企画展入場者			その他 ※(2)	
		日本画家 堀文子展	サントリー 美術館 名品展	秋田蘭画 の世界	没後20年 佐々木裕久展	計	近美彫刻 セレクション ※(3)	横山津恵 デッサン展 ※(4)	計	計	
開催期間	4/1(金) ～3/31(金)	4/23(土) ～7/10(日)	7/16(土) ～9/11(日)	9/17(土) ～11/13(日)	11/19(土) ～2/5(日)		2022/4/1(金) ～4/17(日)	2023/2/11(土) ～3/31(金)			
日数(日)※(1)	350	77	57	56	64	254	17	49	66	30	
利用者数(人)	40,522	5,936	7,338	4,067	878	18,219	679	4,489	5,168	17,135	
一日平均(人)	116	77	129	73	14		40	92			
有 料	個人	一般・学生	4,307	5,647	2,795	363	13,112	-	-	0	0
		シルバー	-	-	-	55	55	-	-	0	0
		身障 一般・学生	250	303	134	-	687	-	-	0	0
		団体 一般・学生	86	62	71	-	219	-	-	0	0
		合計	4,643	6,012	3,000	418	14,073	0	0	0	0

※(1) 日数は、年末休館(令和4年12月29日～令和5年1月2日)及びメンテナンス休館(令和5年1月17日～26日)を除く。  
会期期間中に展示替の日数あり(日本画家 堀文子展2日、サントリー美術館名品展1日、秋田蘭画展2日)

※(2) その他利用者数の内訳は、次のとおり

- ・特別展期間中の入館者：10,139人
- ・ネットワーク事業(県立図書館)：4,456人
- ・出前美術展(能代エナジウムパーク)：1,226人
- ・常設展(5F展示替期間)：1,075人
- ・出前講座等(館外)：239人

※(3) 「近美彫刻セレクション」は、令和4年2月12日～令和4年4月17日まで開催。

※(4) 「横山津恵デッサン展」は、令和5年2月11日～令和5年4月16日まで開催。

## 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応

令和2年に国内で確認された新型コロナウイルス感染症は、令和4年も猛威を振るい、夏季・冬季に感染が拡大した。夏季の第7波、冬季の第8波のピーク時は、県内でも新規感染者が1,000人を超える日が続いた。

令和4年度は、昨年度と同様に感染症予防対策を徹底し、当館を含む秋田ふるさと村の施設の休館や展覧会が中止になる事態は避けられた。また令和2年度に引き続き、当館ではキッズルーム、ハイビジョンギャラリーの一部を閉鎖した状態で開館した。

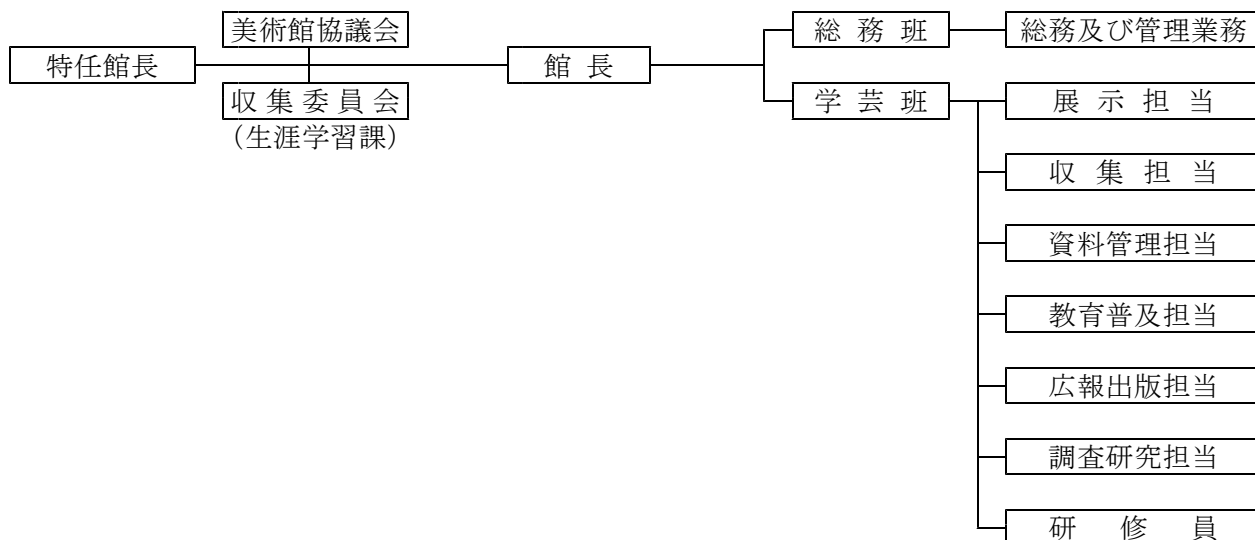
### ■セカンドスクールの対応について

感染予防の観点から、制作体験の受け入れは見合わせとし、展示鑑賞のみを受け入れた。一度に案内する人数を20名程度に制限して実施した。展示室で作品の前に集まっての対話型鑑賞は実施しなかった。

### ■感染予防対策

- ・ 職員のマスク着用、来館者へのマスク着用をお願い
- ・ 非接触型体温計による検温
- ・ 手指消毒用アルコールを設置
- ・ 受付、展示室入口カウンターへアクリルボード設置
- ・ 展示室入口、展示室内でのソーシャルディスタンス間隔表示
- ・ スイッチ、ドアノブ等の定期消毒
- ・ 貸出用のベビーカー等の消毒
- ・ 秋田県版新型コロナ安心システムの案内板設置

## 組織図



## 職員

名誉館長	河野 元昭	美術資料整備	本間 恵里子
特任館長	仲町 啓子	学芸補助	村田 詩織
館長	中村 隆敏	解説員	佐藤 美佳
学芸主事(兼)班長	木村 雅洋		原 彩野
副主幹(兼)班長	佐々木 和志		赤川 和歌子
主事	福田 裕奈		佐々木 瑞穂
	高階 奨		岸 穂乃香
副主幹	鈴木 秀一		菅原 希
学芸主事	藤井 正輝		藤田 園
	北島 珠水		菊地 佳奈
主任(兼)学芸主事	秋田 達也	解説員業務補助	柴田 幸恵
	鈴木 京		伊藤 綾子
主査(兼)学芸主事	保泉 充		
技能主任	伊藤 正信		

## 美術館協議会委員

会長	横井 朗	横手市教育委員会生涯学習課長
副会長	佐藤 克己	横手市立横手南小学校長
	池田 聖子	色々美術研究所代表
	伊藤 聖子	秋田ふるさと村営業部イベント企画広報課長
	小笠原 豊	小笠原権工房代表
	鎌田 あかね	Little A 代表
	河田 美智子	大館市女性センター会計年度職員
	長沢 薫	秋田県書道連盟理事
	石井 令人	日本放送協会秋田放送局長
	渡辺 歩	秋田魁新報社文化部長

# 関係法規

## 秋田県ふるさと村条例（抜粋）

### 第1章 総則 （設置）

#### 第1条

秋田県の文化遺産を次代に継承するとともに、郷土の文化を創造する機会を提供し、及び観光レクリエーション活動のための利便の増進を図り、もって県民のゆとりのある文化的な生活の向上に寄与するため、秋田県ふるさと村（以下ふるさと村という）を横手市赤坂字富ヶ沢に設置する。

（業務）

#### 第2条

ふるさと村は、次の表の上欄に掲げる施設の区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる業務その他ふるさと村の設置の目的を達成するために必要な業務を行う。

施設	業務
秋田県立近代美術館	県にゆかりある作家の優れた美術作品を中心に収集し、保管し、及び展示し、併せて美術に関する調査研究及び普及活動を行う。

### 第2章 近代美術館 （近代美術館）

#### 第4条

秋田県立近代美術館（以下「近代美術館」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条に規定する教育機関とする。

（職員）

#### 第5条

近代美術館に事務職員その他の所要の職員を置く。  
（近代美術館協議会）

#### 第6条

近代美術館に博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第2項に規定する博物館協議会として、秋田県立近代美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 近代美術館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

#### 第7条

近代美術館の特別展示室（特別の企画に基づく展示

を行う展示室をいう。以下同じ）に入場する者から、別表第1に定めるところにより、入場料を徴収する。ただし、幼児、小学校児童、中学校及び高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生（これらの者に準ずる者を含む。）については、この限りではない。

2 前項本文の規定にかかわらず、同項本文の入場料と合わせてふるさと村のスノーホワイト城又はかまくらシアターの使用料を同時に納める者の入場料（定期券によるものを除く。）については、別表第1に定める金額の範囲内において知事が別に定める。

3 入場料は、特別展示室への入場の都度徴収する。ただし、定期券による入場にあたっては、これを発行するときに徴収する。

（入場料等の減免）

#### 第8条

知事は、特別の理由があると認めたときは、入場料を減免することができる。

（入場料等の不還付）

#### 第9条

既に徴収した入場料は、還付しない。ただし、知事は、入館者の責めに帰することができない理由により特別展示室に入場することができなくなった場合その他特に必要があると認めた場合は、その一部又は全部を還付することができる。

（規則への委任）

#### 第10条

この条例に定めるもののほか、近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附則

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

#### 別表第1

特別展示室の入場料（第7条関係）

区分	金額（一人につき）
普通料金	840円。ただし、知事が別に定める展示にあつては、1,500円を超えない範囲内で知事が定める額
団体料金 （20人以上の団体）	750円。ただし、知事が別に定める展示にあつては、1,350円を超えない範囲内で知事が定める額
定期券 （有効期間1年）	2,500円。

## 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

（趣旨）

### 第1条

この規則は、学校以外の教育機関の管理及び運営の基本的事項を定めるものとする。

### 第12条

条例第5条の規定による使用料の減免を受けようとする者は、別に定めるところにより、申請書を知事に提出しなければならない。

## 第8章の2 近代美術館

（開館時間）

### 第37条の2

秋田県立近代美術館（以下この章において「近代美術館」という。）の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、近代美術館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認めるときは、当該時間を変更することができる。

（休館日）

### 第37条の3

近代美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 1 年始（1月1日及び1月2日）
- 2 年末（12月29日から12月31日まで）

（資料の館外貸出し等）

### 第37条の4

近代美術館の資料の館外貸出しを受け、又は特別利用しようとする者は、館長の定めるところにより、所要の手続きを経なければならない。

（準用）

### 第37条の5

第3条第3項及び第4項の規定は近代美術館の休館日の取扱い等について、第6条の規定は近代美術館の利用を拒否し、又は近代美術館からの退去を命ずる場合について、第7条の規定は近代美術館に資料を寄贈する場合等の手続について、第12条の規定は秋田県ふるさと村条例（平成5年秋田県条例第45号）第8条の規定による入場料の減免を受けようとする場合について準用する。

（補則）

### 第37条の6

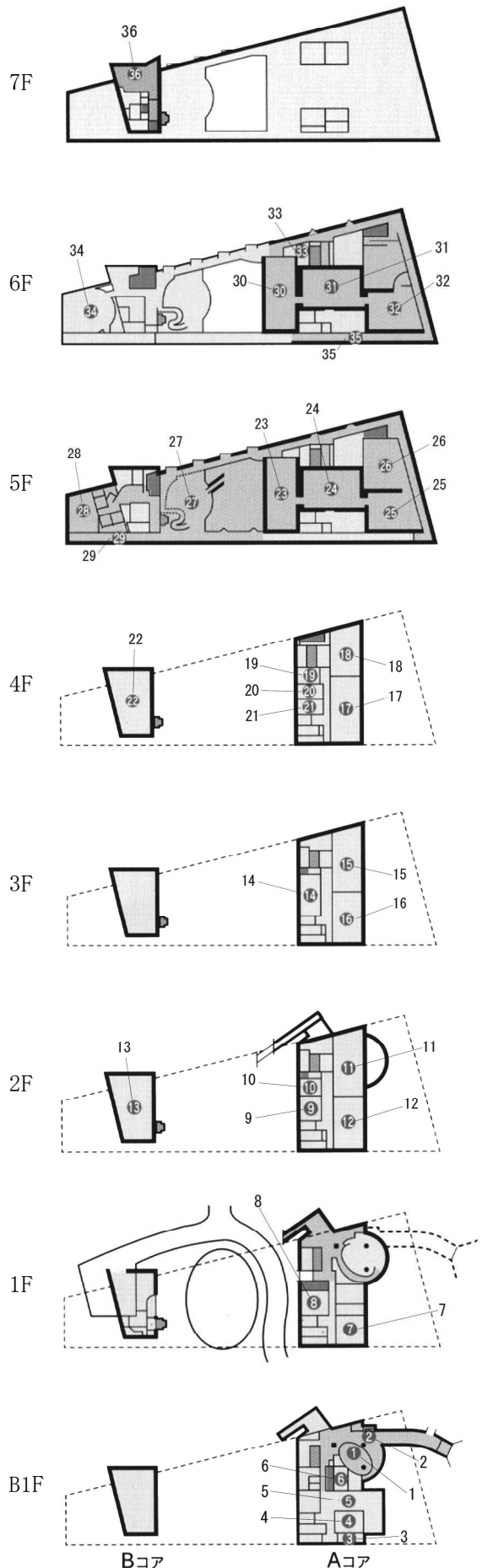
この章に定めるもののほか、近代美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、館長が教育長と協議して別に定める。

## 附則

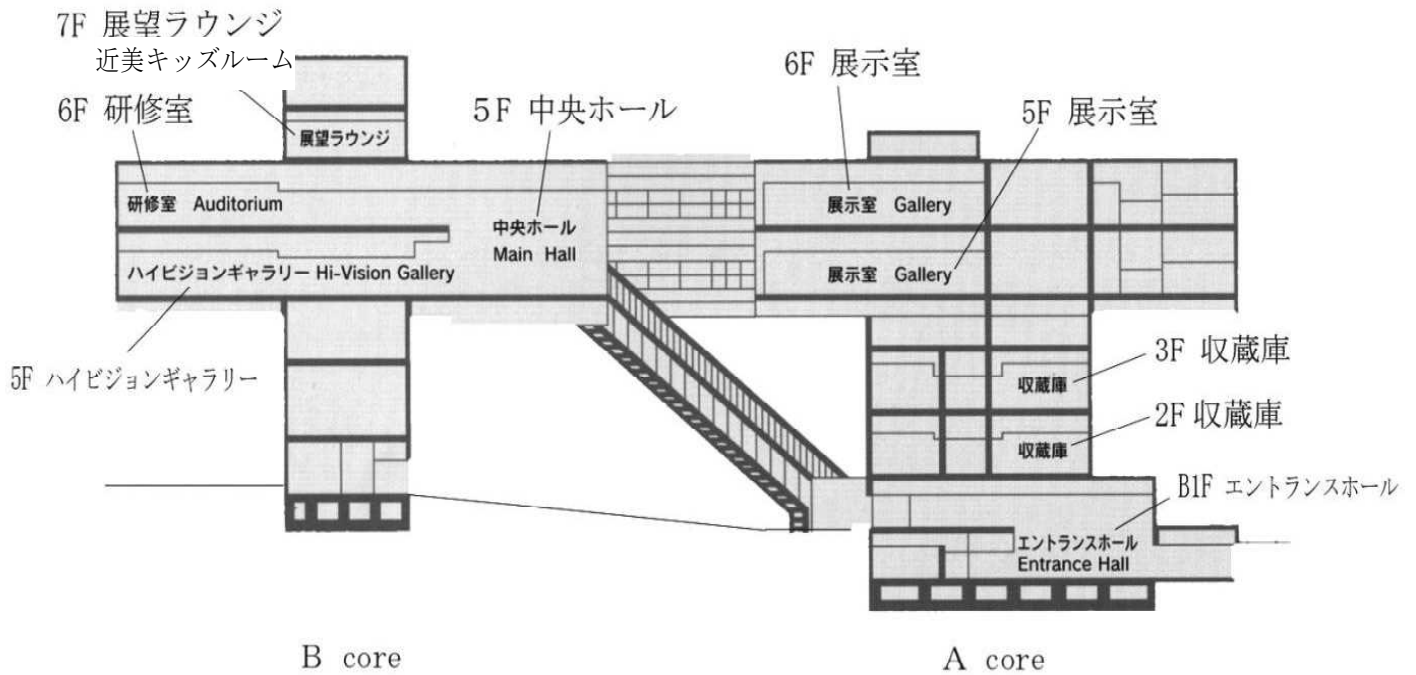
この規則は、平成26年4月1日から施行する。

# 館内図

7F	36	近美キッズ・ルーム	Kid's Room
6F	35	スロープギャラリー	Slope Gallery
	34	研修室	Auditorium
	33	授乳室	Baby Room
	32	展示室(3)	Exhibition Gallery3
	31	展示室(2)	Exhibition Gallery2
	30	展示室(1)	Exhibition Gallery1
5F	29	ふれんどりーギャラリー	Friendly Gallery
	28	ハイビジョンギャラリー	Hi-Vision Gallery
	27	中央ホール	Main Hall
	26	展示室(4)	Exhibition Gallery4
	25	展示室(3)	Exhibition Gallery3
	24	展示室(2)	Exhibition Gallery2
	23	展示室(1)	Exhibition Gallery1
4F	22	電気室	Electric Room
	2	調査・研究室	Study Room
1		館長室	Director's Room
	20	応接室	Lounge
	19	図書・資料室	Library
	18	事務室	Museum Office
	17		
3F	16	収蔵庫(5)	Storage Room5
	15	収蔵庫(4)	Storage Room4
	14	収蔵庫(3)	Storage Room3
2F	13	機械室	Machine Room
	12	収蔵庫(2)	Storage Room2
	11	収蔵庫(1)	Storage Room1
	10	暗室	Dark Room
	9	写真室	Photo Studio
1F	8	会議室	Conference Room
	7	実習室	Atelier
B1F	6	燻蒸室	Fumigation Room
	5	荷解室	Packing Room
	4	一時保管庫	Temporary Storage Room
	3	管理室	Guard Room
	2	インフォメーション	Information
	1	エントランスホール	Entrance Hall







- 1 エントランスホール 彫刻が並ぶアプローチギャラリーを抜けると大理石の壁に囲まれたエントランスホールが広がります。
- 2 エスカレーター 外の景色をながめながら、1階から5階へと皆様をお連れします。
- 3 中央ホール 自然光一杯のアトリウムは展示スペースへの入り口です。正面にハイビジョンギャラリー、右へ進むと展示室へと続きます。
- 4 ハイビジョンギャラリー 美術館の所蔵品や国内外の名作を高精細度の画像で提供するスペースです。
- 5 展示室 5階4部屋の企画展示室では、美術館独自の企画、他美術館・諸団体との共催により、広く内外の美術を特色あるテーマでご紹介します。また6階3部屋のコレクション展示室では、年4～6回の展示替えを行いながら、美術館の所蔵品を常時公開しています。
- 6 実習室 専門的な技法講座や基礎的な美術講座など、幅広い実技講座を行います。
- 7 研修室 充実したAV機器を完備し、展覧会に合わせた講演会の開催や美術史講座など、多目的に活用できるスペースです。
- 8 蔵蔵庫 5室からなる蔵蔵庫は、温湿度管理によって多くの作品保存・管理に対応できる機能をもっています。
- 9 野外展示スペース 自然の起伏を利用した緑の中の展示空間です。見るだけでなく、直に触れることで、より身近に作品を鑑賞していただけます。

# 建築・設備概要

## 建築概要

建設地	秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46
敷地面積	156,100.39㎡(秋田ふるさと村)
建築面積	2,947.32㎡
延床面積	11,166.50㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造) 地下1階 地上7階 PH1階
設計	株式会社 山下設計東北支社
監理	秋田県土木部営繕課・山下設計東北支社

## 施工

建築工事	大成・フジタ・三井・伊藤建設工事企業体
空調	ダイダン・山二建設工事共同企業体
電気	東光電気・伊藤電気建設工事共同企業体
給排水衛生	岡田水道施設工事(株)
受変電	羽後・伊藤電気建設工事共同企業体
弱電	千代田電気工業(株)
昇降機	三菱電機(株)

## 設備概要

### 電気設備

受変電設備	受電電圧3f 3W 6.6KV 50Hz 設備容量1,500KW
非常用発電設備	ディーゼル発電機(A重油)300KVA200V
蓄電池設備	非常照明・電源設備制御兼用 250Ah×1台
監視設備	中央監視装置：機能分散型DDC方式による 集中監視制御
照明設備	蛍光管主体 展示室照明：高演色性蛍光管(調光及び集中点滅 制御方式) 外壁照明：無電極ランプ(パターン照明方式)
視聴装置設備	拡声放送・電気時計・身障者トイレ呼出表示・ TV共聴研修室AV装置・ハイビジョンギャラ リー4系統(80インチ液晶モニター1台・60インチ 液晶モニター3台)ハイビジョンデータベース システム1系統(32インチ液晶モニター1台)
防犯設備	防犯センサー・I TV装置
防災設備	自動火災装置・防排煙設備

### 空調設備

熱源設備	吸収式冷温水発生機2000RT×2台 LPG 焚真空式温水ボイラー80,000Kcal/H×1台
空調設備	ユニット型空調機(還風機組込型)×4台 ユニット型空調機(全熱交換機組込一体型)×5台 ファンコイルユニット天井カセット型×105台 水冷式パッケージ型空調機×6台 空冷式ヒートポンプ型パッケージ×3台
換気設備	第1種及び第3種換気方式
排煙設備	機械排煙及び自然排煙
自動制御設備	機能分散型
燻蒸設備	常圧手動式ユニット型20㎡

### 給排水衛生設備

給水設備	上水引込口径75mm 重力給水方式 受水槽24m <sup>3</sup> 高置水槽6m <sup>3</sup>
給湯設備	局所式(電気貯湯式)：各階湯沸室・宿直室ガス
排水設備	建物内：汚水・雑排水・雨水の各分流式 建物外：生活排水はふるさと村施設全体の浄化 槽へ導入
ガス設備	ふるさと村施設全体の集中LPG装置より供給 主に空調用熱源のエネルギー源として利用
消火設備	炭酸ガス消火・屋内消火栓

### エレベーター設備

乗用エレベーター	1150kg	105m/分	2台
乗用エレベーター	1150kg	90m/分	1台
荷物用エレベーター	3000kg	45m/分	1台
小荷物用エレベーター	300kg	30m/分	1台

### エスカレーター

展望エスカレーター	9000人/時	30m/分	1台
-----------	---------	-------	----

### 主な設備

5階展示室(4室計) 983.10㎡	収蔵庫(5室計) 852.9㎡
(1室) 260.28㎡	会議室 69.4㎡
(2室) 293.76㎡	実習室・準備室 135.0㎡
(3室) 237.13㎡	図書資料室 160.5㎡
(4室) 191.93㎡	調査研究室 45.5㎡
6階展示室(3室計) 786.85㎡	ハイビジョンギャラリー 241.9㎡
(1室) 255.96㎡	研修室 226.7㎡
(2室) 293.76㎡	キッズ・ルーム 128.9㎡
(3室) 237.13㎡	

## 利用案内

### ◆開館時間

午前9時30分～午後5時00分  
(入館は午後4時30分まで)

### ◆休館日 (2022年度)

2022年12月29日～2023年1月2日(年末休館)  
2023年1月17日～1月26日(メンテナンス休館)

### ◆料金

	一般	高・大学生	小・中学生	未就学児	障害者
特別展 日本画家 堀文子	1,200円	800円	無料	無料	半額
団体(20名～)・前売り	1,000円	600円			
特別展 サントリー美術館展	1,300円	1,000円	無料	無料	半額
団体(20名～)・前売り	1,100円	800円			
特別展 秋田蘭画の世界	1,200円	800円	無料	無料	半額
団体(20名～)・前売り	1,000円	600円			
特別展 佐々木裕久展	500円	無料	無料	無料	無料
団体(20名～)	450円				
企画展・コレクション展	無料	無料	無料	無料	無料

教育課程に基づく学習活動として利用する幼児・児童・生徒・学生及び引率者の入館料は免除されます。あらかじめ「観覧料免除申請書」を提出し、その承認を受けて下さい。

## General Information

### ◆Museum hours

9:30 a.m.～5:00 p.m. (Last Admission 4:30 p.m.)

### ◆Closed (Fiscal year 2022)

・Dec. 29, 2022 - Jan. 2, 2023 Year-end Holidays  
・Jan. 17 - 26, 2023 Maintenance Week

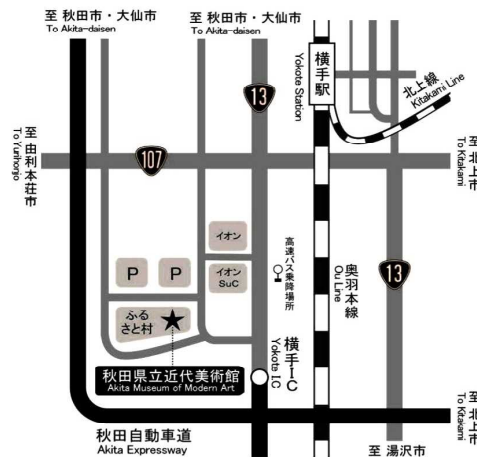
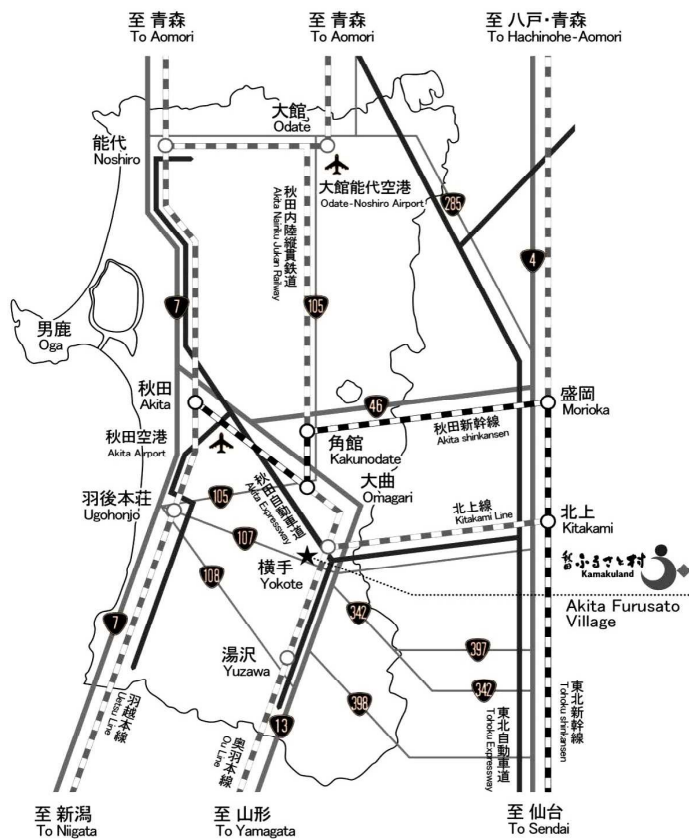
### ◆Admission Fee

	adult	senior high school & college student	elementary & junior high school student	pre-school child	handicapped person
Special Exhibition Hori Fumiko※	¥1,200	¥800		¥0	¥600
Special Exhibition Masterpieces of the Suntory Museum※	¥1,300	¥1,000		¥0	¥650
Special Exhibition Akita Ranga※	¥1,200	¥800		¥0	¥600
Special Exhibition Sasaki Hirohisa※	¥500	¥0		¥0	¥0
Permanent Exhibition	¥450				
	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0

※ Group Discount(20 persons and more)& an advance ticket.

\* Group Discount(20 persons and more)& Senior discount. (persons of ages70 and over).

## 交通案内 Transportation



- ◆ (JRとバスで)  
JR横手駅東口からバスで、「ふるさと村」下車
- ◆ (お車で)  
秋田自動車道 横手インターより3分
- ◆ (高速バスで)  
高速バス 湯沢・秋田線「横手インター入口」下車、徒歩10分
- ◆ (By JR train and bus)  
Get off at JR Yokote Station. Go out of the East Exit and take the bus for Akita-Furusato Mura.
- ◆ (By car)  
Get off at Yokote Interchange on the Akita Express Way, then you will get there in 3 minutes.
- ◆ (By Express bus, Yuzawa-Akita Line)  
Get off at "Yokote Inter Iriguchi", then you will get there in 10 minutes on foot.

**秋田県立近代美術館年報** 2023年7月発行  
編集・発行 秋田県立近代美術館

〒013-0064 秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46  
TEL. 0182-33-8855 FAX. 0182-33-8858  
<https://common3.pref.akita.lg.jp/kinbi/>  
E-mail: [akitamma@rnac.ne.jp](mailto:akitamma@rnac.ne.jp)